

# 事項一〇 東支鉄道管理問題

五六六 二月二十八日 松井外務大臣ヨリ  
在中国芳沢公使宛（電報）

**張作霖ノ朱慶瀾宛オストロモフ、ゴンダツチ罷免ノ電命ニ対シオストロモフノ内話ニ闇スル件**

**付記一 大正十二年八月下旬欧米局稿「東支鉄道土地課移管問題」**

二 大正十二年十一月十三日付在ハルビン山内總領事ヨリ伊集院外務大臣宛機密第二六七号

東支鉄道土地課問題ノ経過ト同鉄道ノ財政情況ニ関スル件

第六七号

在哈爾賓滿鉄事務所長発在当地滿鉄支社長宛電報要旨左ノ通リ貴官内密御参考迄ニ電報ス

二月二十四日露亞銀行理事「レンドル」ノ得タル情報ニ依レハ張作霖ハ朱慶瀾ニ宛テ「オストロウモフ」「ゴンダツチ」兩人ニ辞職サスヘシト電命セル由ニテ二十四日來東支露國幹部ハ深更迄凝議シタルモ何等決スル所ナシ二十四日朝「オ」カ小職ニ語レル所左ノ通ナリ

「オ」ハ株主総会ノ決議ニ依リ任命サレ交通総長ノ認可ヲ受ケ就職シタルモノニテ地方官憲ニハ擅ニ任免スルノ権能ナシ「オ」ハ暴力ニ依ラサル以上断シテ現位置ヲ去ラサルヘシ依テ此際領事團ハ土地課問題同様露國側及露亞銀行ト協力シ支那側ノ暴虐ヲ排除セラレンコトヲ望ム東支本社理事中「リヒテル」「ブンカラヨフ」ハ勿論「オ」ヲ援クヘキモ「ダニレフスキ」、「ウエベル」ノ向背ハ不明ナリ銀行ノ「オ」ニ対スル信任ハ厚キモ最近哈爾賓滯在中ノ「レンドル」ト「オ」トノ間ニ意見ノ疎隔アリ右ハ「スキデリスキ」カ密山炭鉱經營資金四十万円ヲ東支ヨリ借りケンコトヲ申出テタルニ対シ「レンドル」ハ右援助ノ希望ヲ有スルモ「オ」ハ極力之ニ反対シ為ニ「ス」ノ「オ」排斥運動トナリ「スピツィン」等ト連繫シテ支那側ヲ使嗾シ遂ニ今回ノ結果トナリタルモノナリ

「ゴンダツチ」ノ直話モ右ト全然同一ナリ二十五日ノ領事團秘密會議ノ席上「レ」ヨリ「オ」ニ対シ形勢緩和ノ為休暇ヲ得テ旅行セスヤト勧説シタルモ「オ」ハ重大時期ニ際暇ヲ得テ旅行セスヤト勧説シタルモ「オ」ハ重大時期ニ際

シ一日モ此地ヲ去ラスト拒絶セリト

**編註 本問題ニ関シテハ左掲付記参照**

**（付記一）**

## 東支鉄道土地課移管問題

大正十二年八月下旬稿

特別区行政長官朱慶瀾ニ警告ヲ与フルトモニ東支鉄道側ノ申出ニ応シ支那側カ暴力ヲ以テ東支会社所蔵ノ地券押収ヲ妨クル為地券ヲ藏スル書棚二個ニ対シ前記四國領事館ノ封印ヲ施スコトシタリ

右支那側ノ措置タル連合國ノ西伯利鉄道及東支鉄道ニ対スル共同管理委員會設置當時ノ精神並華府會議決議ノ趣旨ニ反スルモノナリ蓋シ東支鉄道共同管理ハ露國人民ノ利益ノ為一時之ヲ管理セムトスルノ目的ニ出テタル次第ナルノミナラス華府會議ノ決議ニ依レハ支那政府ハ一時露國政府ニ代リ暫行的ニ東支鉄道ヲ管理シ居ルモノナルカ故ニ同鉄道ノ現状ニ対シ支那力単独ニ著シキ変化ヲ加フルコト適當ナラサルヲ以テナリ加之支那側ノ援用セル千九百二十年露亞銀行交通部間ノ所謂統約ニツキ之ヲ觀ルニ当初露亞銀行ノ東支鉄道ニ対スル地位架空的ナリシコト、露亞銀行カ東支会社ト別個ノ法人格ヲ有スルコト及東支鉄道建設ニ要スル費用ハ全部露國政府ノ出資ニ依リ露亞銀行カ何等之ニ關係ナキ事実ニ顧ミ右ノ統約ヲ法理上有効ナリトスヘキヤモ慎重講究ノ余地アリテ支那側ノ措置ヲ是認シ難キノミナラス又一方本件措置ノ根本原因タル支那側利権回収運動力北満

（欄外註記）  
問ハス商業上ノ範囲ニ限ラルヘク決シテ政治上ノ事項ニ涉ルヲ得ス云々」トノ規定ニ抵触スルヲ以テ兎角政治上ノ事項ニ涉ル行為アル土地課ハ之カ存在ヲ許ス能ハスト云フニアリ前記支那官憲布告発布ノ報道ニ接スルト共ニ在哈爾賓

帝國總領事ハ直ニ仏、米、英三国領事ト協議シ不取敢東省

ニ於テ成功スル場合其南満ニ及ヒ来ルヘキハ推測ニ難カラ  
サル次第ナルニヨリ我方ニ於テハ差当リ現状維持ノ方針ヲ

本案ハ内田大臣ヨリ擬政宮へ進奏ノ目的ヲ以テ作成シ大臣ノ手許ニアリタルモ内閣更迭ノ為メ進奏ノ運ヒニ至ラサリンモノナリ（歐米第一課長記）

付記二

卷之六

ニ電訓スル処アリタル処同總領事ハ關係三國領事ト協議ノ上重テ支那側ニ対シ强硬ニ抗議スル所アリタルモ支那側ハ

## 東支鐵道土地課問題ノ経過ト同鐵道ノ財政情況ニ関スル件

局ニ対スル手続ヲ履行セシメントシ或ハ支那実業家ヲ介シ

大正十二年十一月十三日

成果ヲ見ルニ至ラス他面旧来ノ東支鐵道土地課ハ支那側今

總領事

ニ服セス同課吏員ハ依然出勤シ居ルモ事實上執務不能ノ状

土地課問題其後ノ成行ト東支鐵道ノ財政狀態

状況ナリ

年七月三十一日支那軍憲力突如東支鐵道府二赴半土地課

日、英、米、仏、四国公使間ノ問題トナリ八月十一日四国

國ヲ通シテ支那中央政府トノ繫争問題ニ変シ次テ張作霖

甲仙米英四國領事ハ張作霖ニ対シ同様抗議ヲナス

(欄外註記)

行ヲ中止セシメタリトカ或ハ本問題ノ責任者張煥相中將等ノ更迭ヲ見ルヘシ云々ノ報道ヲ云へ調査委員会ヲ組織シ具

タル如ク早ヤ感シ問題ハ何時シカ曩ノ輿論囂タリシニ似  
ス表面有邪無邪ノ裡ニ葬リ去ラレタル如キ感ヲ呈シ居ル所  
實際上新設ノ土地管理局ハ今尚存置スルモ有名無実ニシテ十  
仕事ナキ為無聊ノ嘆ヲ遣ル現状ヨリ見テ道聽塗說ノ如ク其  
銳鋒ヲ收メタリト思惟スルハ当ラス当地方ノ人士ニシテ十  
地問題ニ利害關係ヲ有スル向キハ少クモ領事団ノ抗議ヲ無  
視シテ支那側カ仮令嚴令アリトスルモ其所定ノ目的遂行ニ  
難キヲ感知シ居レル為依然鉄道庁土地課ヲ相手トシ居レル  
モ沿線地方ニ在リテハ本問題ノ経緯不案内ヲ利シ支那側ハ  
当初頻発セル布告ヲ楯ニ収税ヲ新設管理局（因ニ同局ノ徵  
稅事務ハ目下警察処ヲ経て行フ）ニ納付方ヲ強要シ鉄道庄  
土地課ノ地方吏員ニ対シテハ任務妨害ヲ敢テシ居レリト云

翻ツテ本件土地課問題ノ解決策トシテハ張作霖ノ命令ニ基  
キ督弁指名ノ土地詮衡委員七名アリ鉄道ニ果シテ必要ノ地  
區ト然ラサルモノトノ測定其他ノ調査ニ從事シ調査ニ要ス

一〇 東支鐵道管理問題 五六六

ヲ避クル為官有地タルト民有地タルト買収シタル所謂一千円土地購入ノ手続並ニ土地ノ使用権永代租借権、所有權等ニ関スル法律上ノ疑義ニ就キ研究ニ從事シ他日ノ資ニ供フル様準備シ居レリトノ事ナリ

状勢如斯ナルヲ以テ土地課問題ノ解決ハ支那側カ計企シ居レル如キ方法ニテ地方的解決ヲ見ムコト恐ラク至難ノ事ト云フヘク孰レハ又々列國關係國ノ注意ヲ喚起スルニ至ラント思考セラルルカ茲ニ留意ヲ要スルコトハ東支ノ土地課ハ土地貸下ニヨリ年々実収約二百万円アリ付帶事業ヲ多ク有スル東支トシテハ特別予算ニ依ル事業支出費ニトリ此ノ財源ハ有力ナルモノトセラレ例へハ一九二一年度ノ付帶事業ノ支出六、四五〇、〇一四留ニ対スル収入二、一二〇、一二五留、一九二二年度ノ同支出五、〇六五、〇七八留ニ対シ収入二、〇九三、〇八七留ハ殆ント大部分土地課ノ収入財源ナリトス然ルニ土地移管ニ關スル係争問題發生以來支那人ハ布告命令ノ適用ヲ恐レ納税ヲ敢テセス露人タルト外国人タルトヲ問ハス問題ノ落着ヲ見ル迄地代其他ノ支払ヲ延期スル結果同課日々ノ収入ハ極端ニ減少シ平常ノ五分ノ一二モ達セサル有様ニテゴンダッチ土地課長ノ実話ニ依ルモノ

万留ノ負債ヲ償却シ來リ諸材料購入代金未払額ハ五月末日ニ於テ千〇五十万六千〇八十九留ニ減少シ本年中ニハ七百万留償却ノ予定ナルニ付尚三百万留ノ返済ニ努メ居レル次第ナルモ日本ハ支那軍憲警察其他支那官衙等ノ維持費ハ年額約八百万留ニ上リ折角純益ヲ多ク挙ケテモ徒ラニ支那側ノ懷ヲ肥ス如キ結果ニ陥ルナキヤヲ危ム云々ト次キニ東支カ有スル債務（満鉄、中國銀行、交通銀行、支払証、債券同利息、タリフ留勘定、烏鉄運賃未払、税金未払、退職手当未払金、花旗銀行ヨリ受手形、信用状発行依頼）ノ一月ヨリ四月末迄ノ金高ヲ左表ニヨリ示ス

十二月末 一四、五〇六、一七九

一月末 一四、一六〇、九八七  
二月末 一三、三五六、七六六  
三月末 一一、七七三、七六五  
四月末 一一、二五〇、四一四

最近ノ事例トシテ経費節減ノ為東支長官ハ各課ニ對シ予算

ヲ一律二割減ヲ強要シ且極端ニ人員淘汰ヲ行ヒ居リ財政ノ前途樂觀ヲ許サス

退職金問題ハ目下東支財政ノ窮状ヲ曝露セルモノニテ退職

ヘク十一月ヨリハ毎月警察ヘノ支出三万円ハ打切りトナス

積ナリト由來東支鐵道ノ財政状態ハ複雜多岐ニシテ其真相ヲ把握スルニ苦シム状況ニ在リ例セハ鐵道運行ニヨル収入ハ比年良好ノ成績ヲ示シ居レルモ一方特別付帶事業軍隊、

警察、支那官公衙ノ維持費ヨリ退職手当金ヤ留紙幣ノ損失補填其他機械購入費ノ債務關係ノ費目少カラス今一九二三年度ノ実収入ヨリ特別予算ニヨル不生産的諸事業ノ欠損額ヲ引去リタル利益金ハ五、五九七、六九五留ニシテ此内ヨリ護路軍鐵道警察、市及沿線警察、審判庁、吉林、黒龍江兩交渉局ノ維持費トシテ四、三〇九、六七九留ヲ支出セリ

（尤モ支那政府負担トシテ代リテ支出スルモノナリ）負担ノ帰趨ハ何レニセヨ實際ニ於テ東支鐵道ハ右費用ヲ年々支

払ヒ来レルニ付昨年度ノ純益ハ一、二八九、三一七留ナリ

キ而シテ本年上半期ノ収入ハ千八百四十八万八百九十三留ニシテ支出ハ約千三百六十万留ナルヲ以テ利益金ハ約四百

八十八万留ト云フ好成績ヲ示シ居レリ此純益金コソ迷宮視セラル東支鐵道ノ債務償却金ニ振向ケラルモノニシテ尤モオストロウモフ長官ノ実話ニ拠レハ本年一月以来約四百

更ナリ吉林省官憲ニ於テモ一文ノ支出ヲ敢テセス露骨ニ云  
ヘハ特別行政長官ハ職權ヲ以テ地方的ニ財源ヲ捻出セヨト  
スルモノノ如ク東支ハ最モ過重ノ負担ヲ蒙リ居レル現状ニ  
シテ否特別行政区ニ於ケル凡百ノ支那官衙ハ東支ヨリノ維  
持費ニテ運用セラルト云フモ過言ニ非ス政略的ニ見タル東  
支鐵道ノ帰属問題ハ露支間ノ係争ニ任センムルトスルモ財  
政的ニ会社力紊乱ヲ來シ遂ニ拾収スルヲ得サルニ至ランカ  
債權ヲ有スル列國ハ袖手傍観ヲ許ササルヘク現状ノ儘推移  
センカ結果列國共管ノ端ヲ發スルニ至ラサルナキヤヲ恐ル  
今ニシテ我方ハ債權確保ノ為将来發言ノ場合主動的立場ヲ  
認識セシムヘキ素地ヲ築キ置ク必要アルヲ思フヤ切ナリ  
右御参考迄此段報告旁申進候 敬具

本信写送付先 在支那公使、在奉天總領事

五六七 二月二十八日 在ハルビン山内總領事ヨリ  
松井外務大臣宛(電報)

我方ニ於テオストロモフノ排斥運動ヲ默認セ  
リトノ風説ニ對シ事實無根ノ旨回答ノ件

(二月二十九日接受)

本官発在支公使宛電報

第三六号

尚前記二月二十五日四國領事會議ノ節(不明) 土地課問題  
ト信シ居レリ

発生ノ際当初「ラキーチン」ハ四國領事ノ執レル行動ヲ是  
認シ居リタリシヤノ風説アリシカ「カラハン」到着後公然  
ト之ニ反対シ外國領事ハ東支内部ノコトニ付テハ干渉ノ權  
ナキ旨ヲ高唱シタル行懸アル故今回ノコトニ付勞農側ノ如  
何ナル態度ニ出スヘキヤ四國領事ニ於テ迂闊リ何等カノ措  
置ニ出テ又反対ヲ受クルモ面白カラスト考ヘラル故勞農

側ノ態度ヲ熟知スル必要アル旨雜談ノ際本官ヨリ談話シ各  
國領事モ賛成シ「オストロモフ」及「ブイヤノースキー」  
之ニ當ルコトトナリ居レリ要スルニ今回「オストロモフ」

(脱) 態度ニ関連シテ何等カノ説ヲ為スモノト認ムルヨリ  
外心当リナキモ右「カラハン」ノ談話ハ貴電第三号ニ依レ  
ハ二十四日ニシテ四國領事會議以前ノコトニ屬スル故何ヲ  
指シテノコトニヤ了解ニ苦シムニ付本件カ将来ニ關係アル  
ヘシトノ御見込ミナラハ先方ニ於テ如何ナル筋ヨリ如何ナ  
ル報告ニ接セル次第ナルヤ御確メノ上御知ラセヲ請フ

大臣へ電報済ミ

五六八 二月二十九日(着) 在中国芳沢公使ヨリ  
松井外務大臣宛(電報)

(奉天中継 二月二十九日前九)

東支鐵道ニツキソ連使節ヨリ中國政府宛警告

一〇 東支鐵道管理問題 五六八 五六九

第一〇号

固ヨリ本官ニ於テ右様ノ運動ヲ試ムル筈ナク又我方ニ於テ  
何等之ニ依リ有利ノ形勢ヲ作り得ル次第ニアラサルヲ以テ  
全ク事実無根ナルカ最近支那側ニ於テ頻ニ「オストロモフ」  
排斥ヲ試ミ特ニ其退職要求ノ示威運動ヲ為サムトセル  
日午前中本官ヨリ朱慶瀾ニ対シ右運動停止方ヲ勧告スル様  
仏國領事ヨリ内談アリシカ本官ハ若シ右様ノ運動ヲ支那側  
ニ於テ試ムルナラハ近頃支那側カ王(不明)ニ閑シ取ルニ  
足ラヌ抗議ヲ為セルト同様却テ其愚劣ヲ示スコトハナル  
ヘキモ外國領事トシテ直ニ一々斯ル事端ニ關係スルハ如何  
ノモノナルカ熟考ヲ要スルト考ヘタルヲ以テ一日カ支那側  
休日ナリシヲ幸ヒトシ其翌日支那道尹公署外交課長(道尹  
不在ニ付其代理ヲ為ス)ヲ往訪スヘキ旨答ヘ置キタルカ何  
カ其後暫クシテ我方カ「オストロモフ」排斥ヲ默認スルカ  
如キ風説ヲ立テ来レルモ本官ハ往電第九号四國領事會議決  
定ノ通り本件ハ東支鐵道重役会ニ於テ先決スヘキ問題ニシ  
テ外國領事カ率先干渉釜敷キ行為ヲ試ムヘキモノニアラス  
ト信シ居レリ

第一〇八号

東支鐵道ニ關シ勞農「ミッショーン」ヨリ支那政府ニ与ヘタル  
警告トシテ「ロスター」ノ發表二月二十五日付「ノート」  
ノ要点左ノ如シ全文郵送  
支那政府ハ一九二〇年露亞銀行代表者ト僕称セル者ト不法  
ノ協定ヲ遂クル處アリタルカ今回更ニ右同一代表者ハ  
露亞銀行ノ為支那官憲ト共同シテ同鐵道上ノ權利ヲ擅ニセ  
ントシツツアルモノノ如シ勞農政府ハ東支鐵道株主ノ利益  
ヲ代表スト称スル如何ナル者ノ行為ト雖苟モ同政府ノ認メ  
サルモノハ仮令他國ニ於テ之ヲ支持スルコトアルモ總テ之  
ヲ詐偽者ノ行為ト見做スヘク同鐵道一切ノ事項ハ勞農政府  
トノ協定成立ニ至ル迄ハ毫モ變更セラレサルヲ要シ現在ニ  
対スル毫末ノ変革ト雖現在並将来ノ露支關係ニ對シ最重大  
ナル結果ヲ齎スヘキヲ宣言ス云々

哈爾賓ヘ転電セリ

オストロモフ罷免ヲ続ルソ連側ノ内情ニ關シ  
申進ノ件

第四二号 (三月一日接受)

今般露亞銀行ノ代表トシテ当地ニ來レル「リーンテル」ハ元来「ド」「ホ」ノ兩監査役ノ贊成アリタルヲ以テ「オストロモフ」ニ之ヲ勧メタルカ拒絕サレ、尚右ニ閑シテハ仏國領事トモ激論ヲ為シタル模様ニテ「リンドル」カ仏國ノ說ニカセサリシ為メ領事ヨリ仏國公使ニ請訓スル所アリ別電中記載ノ通り絶対ニ支持ノ電訓アリタル次第ニテ往電第三六号ニ頗ル入り込ミタル經緯アル旨記セルハ右ノ事情ニ依リ発端ヲ開キ居リタル為メナリ尚「ブチロフ」ヨリ「オストロモフ」宛入電ハ當地露亞銀行ヲ經ル而已ニテハ安全ナラスト認メタルモノト見ヘ「ブ」ハ在長春露亞銀行支店ヲ經テ「オストロモフ」ニ電文到達ノ有無ヲ聞キ合セタリ又在仏同行理事ノ一人タル「バトーリン」ヨリモ「オストロモフ」ニ対シ露亞銀行ノ「(脱)……」及「ゴンダッヂ」ヲ罷免スルコトハ既ニ確定ナル旨ヲ示セルニ亞イテ「オストロモフ」ニ対シ暫時外遊ヲ勧メントシ露西亞側重役會議ヲ召集シタルカ「リフテル」「ブシカレエフ」両理事

ノ反対アリシモ「ダニレフスキ」「ウエーベル」ノ両理事並ニ「クズネツォーフ」「エルワコフ」ニ活躍ノ余地ヲ与ヘント計リタルラシク來哈ノ途次奉天ニ於テ張作霖ニ面会ノ節支那側ノ希望切実ナラハ「オストロモフ」ヲ退職セシムルコト難事ニアラサル旨ヲ洩シタル形跡アリ二月二十四日東支鐵道本社顧問「スピーチン」カ奉天ヨリ朱慶瀾ノ許ニ達セル密電ヲ盜ミ來リ「オストロモフ」ノ部下タリシ関係アリ且「オストロモフ」ト仇敵ノ間柄ナル「スキデルスキー」ト親交アリ尚「スキデルスキー」ト頗ル親シキ「グラーデン」ト懇意ナル故「オストロモフ」ハ退職セシメ先ツ支那側ノ満足ヲ得テ土地課問題ヲ解決シ自己ノ高名ヲ得タル而已ナラス「スキデルスキー」(脱)アルコト「ラウンドル」ハ全然其態度変更ノ必要アルコト並ニ「オストロモフ」留任方ニ閑シテハ仏國政府ノ支持ヲ得ルコト受合ヒナル旨入電アリタル由三月一日「オストロモフ」ノ秘書ヨリ本官宛内報アリタリ

公使、奉天電報済ミ

五七〇 三月一日 在ハルビン山内總領事ヨリ  
松井外務大臣宛(電報)

オストロモフ罷免ニツキ我方ノ今後採ルベキ

態度ニ關シ電方申請ノ件

第四三号 (至急)

(三月一日接受)

二月二十五日夜仏國領事ハ在北京仏國公使ヨリ「オストロモフ」ヲ絶対ニ支持シ其ノ地位ニ止マル様尽力スヘキ旨訓令ヲ次テ「オストロモフ」ハ露亞銀行總裁「ブチロフ」ヨリ同人ニ対シ銀行ハ大体ノ信任ヲ有スル旨ノ電報ヲ得タルモ二月二十九日王景春一派ノ(不明)局面ハ急転シキタルト予想サレタルヲ以テ仏國領事ノ請求ニ依リ二月二十九日午前四國領事會議ヲ開催仏國領事ヨリ此際何等「オストロモフ」擁護ノ提議アリタルカ本官ハ別電ノ通入込ミタル行懸アリ且別項記載ノ為支那側依頼ノ次第アリ、又王一派此ノ形勢ヲ(不明)スル必要ヲ認メ居ルヲ以テ本官トシテハ去ル日躍日ノ決定以外ノ行動ニ出ツルニハ閣下ヨリ何分ノ御訓令ヲ仰ク必要アルニ付態度ヲ保留シタキ旨ヲ述ヘ英國領事モ英國政府カ労農政府ヲ承認セル關係上現在ノ態度ニ異ナル行動ニ出ツルニハ何分ノ訓令ヲ要スル旨ヲ述ヘ結局仏國領事及「オストロモフ」ト親交アル英國領事タケ支那側ノ然ルヘキ筋ニ同意方申入ルル事トナリ散会セリ尚此會議開

# 一〇 東支鐵道管理問題 五七一 五七二

五九八

ハ現在ヨリハ大ニ便宜トナルヘキハ疑ハサルヲ以テ二十九日ノ會議ニ於テモ日支關係及東支問題ニ關スル勞農ノ態度

等ヲ口実トシ前回決議ノ通態度変更ニ付テハ請訓ノ必要ア

ル旨述ヘタル次第ニテ前記會議ニ於ケル本官ノ態度ハ幸ニ

御承認ヲ得ル事ト考フルモ其後形勢ノ變化上記ノ通ニ付向

後本官トシテ執ルヘキ態度ニ関シ何分ノ御回電ヲ請フ

公使、奉天ヘ電報済

五七一 三月一日 川田閨東軍參謀長ヨリ

武藤參謀次長宛（電報）

王景春ノオストロモフ、ゴンダツチノ職務執行

ノ一時停止命令ヲ携行シ帰哈セリトノ情報ノ件

（三月四日外務省接受）

哈市電

東支督弁王景春ハ本二十九日帰哈ス督弁ハ「オ」長官及「ゴンダツチ」ノ職務執行ヲ一時停止セシムヘキ交通總長ノ命令ヲ所持シアリト伝ヘラレ一般ニ注目セラレアリ

北京、天津済

五七二 三月六日 松井外務大臣ヨリ

在中国芳沢公使宛（電報）

第八九号

オストロモフ罷免問題ニ關スル我方ノ態度二

關シ訓令ノ件

山内總領事ヨリ本大臣宛來電第四三号ニ關シテハ貴使発山内總領事宛往電第三号末段ノ通目下貴使ニ於テ勞農側ト交渉中ノ關係モアリ且又山内總領事發本大臣宛電報第三三号及第四三号所載「オストロモフ」ノ任免ハ東支重役会ニ於テ推薦セラレ交通總長ノ許可ヲ經テ任命セラレタル云々ノ基礎カ一九一〇年露亞銀行ト交通部トノ間ニ締結セラレタ

ル所謂統約ニアリトスレハ我方トシテハ右統約ノ効力問題又ハ之ヨリ生スル事態ニ關シ何等「コンミット」スルカ如キ立場ニ立到ルコトハ可成之ヲ避クル方得策ト思惟セラルニ付山内總領事ニ対シ本件ニ關シテハ露支又ハ露亞銀行ノ何レニモ偏スルコトナキ様又前記統約ニ基キ何等「コンミット」スルカ如キ行動ニ出テサル様為念注意シ置クコト可然ト思考スル處貴使ニ於テ仏國側其他ト接触ノ振合モアルコトナレハ前記ノ次第御考慮ノ上貴使ニ於テモ同感ナルニ於テハ其旨山内總領事へ本官ノ訓令トシテ御電報相成度シ尚右ニ關シ何分ノ儀當方ヘモ回電アリタシ

編註 本電ハ芳沢公使発第八号ヲ以テ山内ハルビン總領事ニ転達セラレタリ

五七三 三月六日 在パルビン山内總領事ヨリ

松井外務大臣宛（電報）

張東三省總司令ヨリ東支鐵道ノ土地問題ニ關

シ通牒ノ件

第三八号（訂正ノ分）

（三月七日接受）

東支鐵道督弁代理俞人鳳ハ今般東三省保安總司令部ヨリ東

支鐵道會社ノ營業ニ關スル通牒ニ接シタル趣ヲ以テ二月十一日付同社宛書面ニ依リ右ノ趣旨左ノ通り關係國へ然ルヘク移牒セラレタキ旨申送リタル処右通牒ニ依レハ保安總司令部ハ東支鐵道統訂契約第六条ニ於テ會社ハ單ニ商業上ノ經營ノミヲ為スニ止マリ政治的事項ヲ取扱フヲ得ス支那政

府ハ之ヲ取締リ得ルコトト規定セラルニ拘ハラス猥ニ土

地払下市街建設等ノ事業ヲ為シ居ルハ明ニ契約ニ違反シ主

權ヲ侵害スルモノニシテ其ノ經營ニ於テモ契約ニ違反セル

点鮮カラサルニ付後日改メテ提議スヘキモ唯支那行政ニ関

スルモノハ急速改正ヲ必要トスト為シ之カ解決方法トシテ

四箇条ヲ掲ケタルカ大体ニ於テ鐵道ニ直接必要ナル土地及

一〇 東支鐵道管理問題 五七三 五七四

三月六日米國領事ノ本官ニ内話スル処ニ依レハ支那側ノ「オストロモフ」排斥ニ關シ在北京米國公使ヨリ向後ハ單獨、共同何レヲ問ハス何等支那側ニ申入レ等為スヘカラス

トノ訓令ニ接セル趣ニテ英國領事モ略々同様ノ訓令ニ接セ

ツキ米國領事ノ内話ノ件

第四六号

（三月七日接受）

五七四 三月六日 在ハルビン山内總領事ヨリ

松井外務大臣宛（電報）

オストロモフ排斥問題ニ對スル各國ノ態度二

五九九

ル由ナリ尚数日前仏國領事館員ヨリ本官ニ極秘トシテ内話スル處ニ依レハ其ノ後仏國公使ヨリ同領事ニ対シ在北京日本及英米両國公使ノ本件ニ対スル態度ハ頗ル タンボ 的ナル

故「オストロモフ」ヲ充分支持シ得サルヲ遺憾トスル旨電報シ来リタル趣ナリ

又三月五日及六日ノ兩日ニ亘リ在北京仏國公使館付武官ト会見ノ結果ニ依レハ同官ハ事件ノ真相調査ノ為同地ニ来リ大ニ得ル處アリ詳細既ニ仏國公使ニ報告済ニ付此上ハ公使ニ於テ一切ノ方針ヲ確定スル許リナリト語レルカ差当リノ思付トシテハ此處約二ヶ月位成ルヘク問題ヲ緩和スルニ力メ其ノ内「ブチッチュグナン」ヲ巴里ヨリ呼出シ同人ノ力ニ依リ「オストロモフ」ニ何カ歐米行使命ヲ授ケ出発セシメ以テ円満ナル解決ヲ計ラントスルモノノ如ク其ノ間唯労農側ト支那側トノ協商進行ノ成行ヲ最注意シ居リ若シ急転スル様ナラハ又其ノ時ノ考ヲ出ス模様ナルカ如ク観察セラル

公使、奉天ニ電報済ミ  
貴電第九号ニ関シ  
本官發在支公使宛電報第二二一号  
第五五号  
(三月十三日接受)

「オストロモフ」カ当地勞農國民籍簿ニ登録ヲ為セル由ハ曩ニ聽取シ居リタルカ右ハ當地露國人ノ大部分ノ為セル行動ニシテ現ニ露亞銀行當地代表者「ブイヤノフスキイ」ノ如キハ二年前ヨリ登録シアル趣ナリ尚三月十二日四國領事會議開催ノ際ニモ其話出テ仏國領事ハ右カ事實ナルコト並ニ東支鐵道職員中大部分ハ登録ヲ為シ銀行重役中「ウエーベリ」ヲ除ク外即チ「ダニレフスキイ」、「リフテル」、「アシカレエフ」等モ登録済ミト信スル旨述ヘタリ尚「オストロモフ」ト勞農側トノ關係ハ諸説アリ「リンドル」當地出发ノ前日「グラーベ」ヨリ本官ニ合意成立ノ旨内話アリ其後「ゴンダッヂ」ヨリ当地特務機關ニモ同様内報アリタルモ右ニ聞シ「オストロモフ」ノ話ニ依リ聞ク方最参考トナル次第ト信シ三月十一日「オ」ヲ訪問聞キタル所左ノ如シ「リンドル」ヨリ「オ」勞農トノ密約云々ヲ露亞銀行巴

東支鐵道土地問題關係支那側地畝管理分局設置ノ件  
公第一三〇号  
(九月十四日接受)

大正十三年三月七日  
在哈爾賓 総領事 山内 四郎 (印)

外務大臣男爵 松井 慶四郎殿

東支鐵道土地問題關係支那側地畝管理分局設置ノ件  
東支鐵道土地課ノ事務ヲ引繼ク為ニ當地ニ設ケラレタル支那ノ特別機関「特別區地畝管理局」ハ護路軍總司令部參謀長第十八旅長張喚相少將ヲ局長兼任トシテ爾來着々其実權回収ニ努メ來リタル處今般其事務ノ進行上且又唯々哈爾賓ノミニ止マラス東支鐵道全線ニ亘リテノ付屬地管理權回収ノ為ニ各地ニ分局ヲ設クルノ必要ヲ認メ別紙写ノ通「地畝分局暫行弁法」ナルモノヲ定メ特別區行政長官公署ノ認可ノ下ニ本年一月一日ヨリ之カ實施ニ着手シタル趣ニ有之候該規程写並ニ訳文相添此段及報告候 敬具

本信写送付先 在支公使、在奉天總領事

編註 別紙「地畝分局暫行弁法」見当ラズ

五七五 三月七日 在ハルビン山内總領事ヨリ  
松井外務大臣宛

五七六 三月十二日 在ハルビン山内總領事ヨリ  
松井外務大臣宛(電報)

リトノ噂モアル由ナルカ「オ」ノ氣トシテハ到底現職ニハ止リ難キ故目下支那側ニ対スル攻撃盛ナル時期ヲ外シ、二月後欧米何レカニ於ケル鉄道社用ヲ達シ旁々当地出発離任スルコトシタント申シ居レリ  
大臣、奉天電報済ミ

五七七 三月十三日(着)

在中国芳沢公使ヨリ  
松井外務大臣宛(電報)

### オストロモフ問題ニ関スル仏國公使ノ意見ニ

#### ツキ申進ノ件

第一五一号

本使発在哈爾賓總領事宛電報第一〇号  
三月十日仏國公使來訪ノ際同公使館付武官最近哈爾賓ヨリ  
帰来シタルカ同武官カ山内總領事ニ面会シタル際同領事ハ  
「オストロモフ」ハ過激派ニ走リタルカ故ニ之ヲ援クルノ  
必要ナキニ至リタル旨ヲ述ヘ居リタル旨ヲ語リ同公使ノ意  
見トシテハ東支鐵道ハ「スタ・ス・クオ」ヲ維持スヘキモ  
ノニテ「オストロモフ」ハ「スタ・ス・クオ」ヲ代表シテ  
在住シ居ルモノナリ旁々急激ナル変化ハ好マシカラス「オ」  
ハ或ハ過激派名簿ニ登録サレタルコトアルヤモ知レサルモ

(奉天中継三月十三日前八・三八)

五七八

三月十三日

野中朝鮮銀行總裁ヨリ  
廣田欧米局長宛

### 中ソ交渉ノ成行ニ關シ東支鐵道ノ内部動搖ノ

#### 状況ニツキ朝鮮銀行哈爾賓支店ヨリ報告ノ件

##### 付属書

同日着朝鮮銀行ハルビン支店來電

東支鐵道ノ内部動搖狀況ニ關スル件

東総第一三五号

大正十三年三月十三日

朝鮮銀行

總裁 野 中 清

欧米局長 広 田 弘 毅 殿

拝啓別記哈爾賓支店ヨリノ來電御参考迄ニ供高覽候也

(付属書)

三月十三日着朝鮮銀行ハルビン支店ヨリ同本店宛電報

東支鐵道ノ内部動搖狀況ニ關スル件

哈爾賓支店來電

(大正十三年三月十三日着)

五七九 三月十四日

在ハルビン山内總領事ヨリ  
松井外務大臣宛(電報)

オストロモフ問題ニ對シテハ我方不介入ノ態

露國承認ノ大綱ヲ決定セリトノ電報アリタル為メ東清鐵道

一〇 東支鐵道管理問題 五七八 五七九

第六〇号ノ一

(三月十五日接受)

六〇三

本官発在支公使宛電報第二五号ノ一

貴電第一〇号ニ関シ

在北京仏國公使館付武官トハ二日会談セルカ其何レノ場合ニ於テモ「オストロモフ」ハ過激派ニ走リタルカ故ニ之ヲ助クル必要ナキ旨言明シタルコト無シ元来「オストロモフ」ト過激派トノ關係云々ニ付テハ本官ニ於テ其當時既ニ噂トシテ聞込ミノ次第アリシハ事実ナルモ往電第二一号ニ於テ御承知ノ如ク本官トシテ之ヲ確信スル材料ヲ有シ居ラサリシ故閣下ヨリノ御訓電ニ接セル機會ニ於テ「オ」ヲ直接往訪ノ上事情ヲ尋ネタル程ニテ其後四國領事會議ノ際仏國領事ヨリ「オ」其他ノ重役モ労農年鑑ニ登録済ノ趣キ話アリ又仏國領事ヨリ重ネテ「オ」ノ登録ノ行ハレタルハ二月二十二日ナル旨聞込メル次第ニテ本官ニ於テ「オ」ヲ過激派ニ走リタリトノ事ヲ前提トシテ本官ノ態度ヲ決定シ本件ニ関シ最モ敏活ナル仏國側ニ言明スル理由ナシ但同武官ト談話ノ際支那側ニ於テ「オ」カ過激派ト繫帶スル故一九二〇年ノ條約中ニ禁止スル政治ニ関与セルモノトシテ「オ」ヲ罷免スルコトヲ計画セル由聞込メルニ依リ右様ノ場合ニハ仏國側ハ如何ナル態度ヲ執ルヘキヤ「オ」ニ対スル支那

側ノ排斥猛烈……ナル故斯ルコト（脱）絶対ニ保シ難ク其際ノ我々ノ取ルヘキ態度ヲモ研究シ置ク必要アルモノナルヘシト思考ス本官カ当初ヨリ平素頗ル親交アル「オストロモフ」擁護ニ熱中セサルハ露支交渉ノ進捗ヲ見ントスル今日特ニ当地支那官民カ中心トナリテ極端ニ同人ニ対スル排斥ヲ試ムル際我方カ輕々シク其渦中ニ入ルハ後ニ至リ取返シノ付カサル結果ヲ生スルヲ怖レテノコトニテ同人ニ関シ開カレタル二月二十五日及二十九日ノ四國領事會議ニ於テモ成ルヘク控へ目ノ態度ヲ取レルハ之力為メナリ「オ」カ過激派ニ走リタリトノ確信ヲモ有セサル本官カ「オ」ノ態度変更ヲ理由トシテ援助ヲ拒ム等ノコトハ有リ得ヘカラサルコトニシテ此点ニ若シ閣下ニ於テ御差支ナクハ仏國公使ニ説明ヲ与ヘ置カルル様致シタシ（統ク）

五八〇 三月十六日(着) 在ハルビン山内總領事ヨリ  
松井外務大臣宛(電報)

オストロモフ問題ニ對シテ我方不介入ノ態度  
ノ維持然ルベキ旨申進ノ件(二)

第六〇号ノ二  
本官発在支公使宛電報第二五号ノ二

元來東支鐵道ノ現状維持ナルコトハ主義トシテ表明スルハ甚タ容易ナルコトナルモ其ノ所謂現状ナルモノハ何ヲ指スカ本官ハ少クトモ華盛頓會議ノ際ノ現状即一九二二年ノ統約ヲ含ム現制度ノ大綱ノ維持位迄ハ……是ニ含マセ差支ナキモノト心得居リタル處過般閣下ヲ通シテ大臣御訓令ノ趣旨ニ依レハ右統約ヲモ我方ニ於テ「コムミット」セサル様承知スヘキ筋合ナルコト明瞭トナレルヲ以テ此上トモ益々用心深キ態度ヲ執ル必要ヲ認メ居ル次第ニテ仮令鐵道經營其ノモノニ至大ノ影響アリトハ云ヘ鐵道ノ一高級職員ノ進退ニ過キサル問題ヲ捕ヘテ直ニ現状維持ニ反スルモノト称シ外部ヨリ是レニ干渉スルハ面白カラスト思考シ居リ先ツ其ノ会社ノ内的關係ニ於テ本問題カ如何ニ取扱ハルルヤヲ落着キテ觀察シ置クニ満足シテ可ナリト存スルノミナラヌ特ニ「オ」ノ進退ニ關シ支那側ニ対シ少シニテモ擁護的態度ニ出ツルトキハ当地方支那官憲ノ我方ニ対スル反感ヲ甚シク助成シ切角昨今順調ニ向ヒ来レル當地方ノ對支關係ヲ悪化スルノ虞アルコトト思考セラルルニ付此点本官ニ於テ特ニ慎重ニ取扱ヒ居ル次第ニテ東支鐵道ノ重要職員カ労農ト繫帶セルヤ否ヤハ仏國ニ取リテハ重要

側ノ排斥猛烈……ナル故斯ルコト（脱）絶対ニ保シ難ク其際ノ我々ノ取ルヘキ態度ヲモ研究シ置ク必要アルモノナルヘシト思考ス本官カ当初ヨリ平素頗ル親交アル「オストロモフ」擁護ニ熱中セサルハ露支交渉ノ進捗ヲ見ントスル今日特ニ当地支那官民カ中心トナリテ極端ニ同人ニ対スル排斥ヲ試ムル際我方カ輕々シク其渦中ニ入ルハ後ニ至リ取返シノ付カサル結果ヲ生スルヲ怖レテノコトニテ同人ニ関シ開カレタル二月二十五日及二十九日ノ四國領事會議ニ於テモ成ルヘク控へ目ノ態度ヲ取レルハ之力為メナリ「オ」カ過激派ニ走リタリトノ確信ヲモ有セサル本官カ「オ」ノ態度変更ヲ理由トシテ援助ヲ拒ム等ノコトハ有リ得ヘカラサルコトニシテ此点ニ若シ閣下ニ於テ御差支ナクハ仏國公使ニ説明ヲ与ヘ置カルル様致シタシ（統ク）

五八〇 三月十六日(着) 在ハルビン山内總領事ヨリ  
松井外務大臣宛(電報)

オストロモフ問題ニ對シテ我方不介入ノ態度  
ノ維持然ルベキ旨申進ノ件(二)

第六〇号ノ二  
本官発在支公使宛電報第二五号ノ二

# 一〇 東支鐵道管理問題 五八一 五八二

六〇六

ニ進マハ好都合ナリト思考ス

外務大臣ニ転電セリ

五八一 三月二十一日 在旅順兒玉関東長官ヨリ  
松井外務大臣宛（電報）

## 白川軍司令官ト張作霖トノ会談内容ニ關シ申

### 進ノ件

（三月二十二日接受）

白川軍司令官ハ初年兵現況視察旅行ノ途次奉天ニ立寄リ十九日張作霖ノ非公式招宴ニ臨ミタル處張氏ハ凡ソ左ノ通語レル趣ナリ

(一)過日児玉長官ヨリ申出アリタル鐵道施設等ノ事項ハ着々実行スヘキニ付此ノ旨長官ニ伝言アリタシ

(二)北京政局ニ関シ曹大總統ハ糖尿病ニ罹リ目下頗ル重態ナル為中央政界ハ動搖ヲ來シツツアリ

(三)現下ノ政治問題トシテ最重要ナルハ露支交渉ナリ故ニ特ニ代表者ヲ北京ニ派シ強硬ナル態度ヲ以テ之ニ臨マセツツアリ就中東支鐵道問題ハ支那全体ノ重要案件タルノミナラス東三省ニ取リテハ最大緊切ノ關係ヲ有ス恐らく日本ニ於テモ大ナル影響ヲ感スヘシ自分ハ飽迄日本ト同一態度ヲ以

支社長理事 入江海平（印）  
事務取扱理事 入江海平（印）

外務省歐米局長

広田弘毅殿

### 東支鐵道ニ關スル件

拝啓目下露支會議ノ問題タル東支鐵道ノ将来ニ關シテハ弊社ハ營業上之ト密接ナル利害關係ヲ有シ惹テ我國策上ニモ亦甚大ナル影響有之候事ト被存候条其対策ニ就キ弊社ノ立場ヨリ見タル卑見左ニ具陳仕候

第一、弊社ノ立場ヨリ是ヲ觀ルニ東支鐵道南部線ハ此際我國ニ於テ其権利ヲ買収スルヲ以テ最得策ト存シ但シ若シ之ヲ不可能トル場合ニハ第二、東支鐵道南部線ノ軌幅ヲ標準軌幅ニ改築シ運賃制定ノ権利ヲ包含スル同鐵道ノ委任經營ヲ弊社ニ於テ引受クル事ニ致度

第三、前記第一乃至第二其不可能ノ場合ニ於テハ渺クトモノ權利ヲ包含スル同鐵道トノ間ニ於ケル運賃協定ハ此

際全部之ヲ廢棄シ哈爾賓及東支鐵道西部線ヲ中心トシテ

テ進ミタキ決心ヲ有スルニ付テハ日本政府ノ之ニ對スル方針ヲモ承知シタキ次第ナリ云々

惟フニ東支鐵道ノ地位ノ変動力我南滿鐵道ニ及ホス影響ノ甚大ナルハ今更申ス迄モナク今ヤ露支ノ交渉紛糾シツツアル機会ニ於テ張氏ヲシテ我レニ有利ナル態度ヲ持セシムルコトハ单ニ東支鐵道問題ニ對スル我カ政策上便宜アルノミナラス對露政策上裨益スル所懃カラサルヘシ幸ニシテ張氏ハ今ヤ我政府ノ好意ニ對シ深ク感激シ何事ニアレ帝国政府ノ為ニ尽サントスルノ意向ヲ有スル次第ナレハ此ノ際帝国政府ニ於テ東支鐵道ニ對スル大体方針ヲ定メラレ以テ張作霖ヲ指導スル立場ヲ保チ彼ラシテ我ト同一歩調ニ出テシムルコト繁要ナルヤニ思考セラル

白川司令官ト張氏トノ談話ニ關連シ何等御参考迄ニ申進スル事無く本件は我國之ニ對スル滿鐵側ノ意見真陳ノ件アリト正十三年四月四日 入江滿鐵理事ヨリ  
五八二 四月四日 入江滿鐵理事ヨリ  
東支鐵道ノ将来ニ對スル滿鐵側ノ意見真陳ノ件  
東庶第一三号  
（外務省接受月日見当ラス）

大正十三年四月四日  
南滿州鐵道株式會社東京支社

寛城子及「ボクラニチナヤ」ニ至ル運賃ヲ距離ニ比例シテ新タニ制定ノコトニ致度且ツ如何ナル場合ニ於テモ東支鐵道ノ賃率カ浦鹽ニ對シ特殊利益ヲ供与スルコトナキ様賃率ヲ定ムルコトニ有之候尚弊社ノ大体方針トシテハ此機會ニ於テ出来得ル限り北満ニ於ケル露國ノ勢力ヲ薄弱ナランムルコトヲ主眼トスル次第ナルモ前記目的ヲ達成スル手段トシテ若シ此際露國ヲ支持スルヲ以テ有利トスル場合ニ於テハ一時之ヲ支持スルコトモ亦止ムヲ得サル儀ト被存候加之東支鐵道ニ對スル支那ノ勢力進展ニ依リ同鐵道ニ付隨スル弊社其他我國ノ既得権利ニ毫モ影響ヲ及サシメサル様特ニ希望スル次第御座候以上開陳ノ通ニ有之候間今後同問題ニ關シテハ適當ノ機会ニ於テ我國ノ利益獲得ノ為メ格段ノ御高配相仰度此段奉願候 敬具

五八三 四月十七日 在ハルビン山内總領事ヨリ  
松井外務大臣宛（電報）

張作霖、中國側ノ設置セル地租管理局ノ廃止  
命令説ニツキ報告ノ件

第七九号  
（四月十八日接受）

一〇 東支鉄道管理問題 五八四 五八五 五八六

六〇八

東支鉄道土地課移転問題其後ノ経過ニ関シテハ往電第三八号及三月三日付往信ヲ以テ報告シ置キタルモ最近新タニ聞込タル情報ニ依レハ張作霖ハ近ク朱慶瀾ニ対シ曩ニ支那側ノ設立シタル地租管理局ハ適当ノ時期ニ於テ之ヲ廃止スヘキ旨ヲ電命越シ朱ハ之ニ関シテ該管理局ハ元張司令ノ命令ニ依リテ設立シタルモノナルニ今更之ヲ廃止スルハ不可能ナリトテ極力反対ノ意ヲ表セリト云フ尚右ハ王景春カ張司令ニ中傷シタル結果ナラント右聞込ノ儘電報ス

北京奉天ヘ転電セリ

(長春中継大正十三年四月十七日后二、三〇)

五八四 五月二日 松井外務大臣ヨリ  
在中国芳沢公使宛(電報)

露亞銀行ニ閲スル共同措置ノタメノ仏國公使

ノ打診ニツキ回訓ノ件  
第一六八号

貴電第三三三号前段ニ閲シ

当方ニ於テハ何等心当リナキ處仏國公使カ日本トハ既ニ話合済ナリト云ヘルハ如何ナル筋ニヨリ如何ナル話合ヲ遂ケタル次第ナリヤ同公使ニ突キ止メ電報アリタシ

打診ニツキ回答ノ件

(五月七日接受)

第三三七号

貴電第二六八号ニ閲シ仏國公使ニ確カメタル処三月末本国

政府ヨリ本問題ニ關シ日、英、米三国政府ニ開談シタル処日、英両国ヨリハ既ニ満足ナル回答ヲ得タルモ米国ヨリハ未タ確答ヲ得ルニ至ラストノ電報ニ接シタルカ最近米国トノ話合ヒモ纏マリタル由電報アリタルニ付往電第三三三号ノ通本使ヘ申出テタル次第ナリトノ事ナリ尚同公使ノ談ニ依レハ其後米国公使ニ本国政府ヨリ來訓ノ有無ヲ尋ネタルニ本問題ニ關シ華府會議ノ決議ニ基キ支那政府ノ注意ヲ喚起スルコトトシ差支ヘ無キモ右ハ露支交渉ニ干渉スルノ意ニアラサル事ヲ明カニシ置クヘシトノ訓令ニ接シタル趣ニテ又仏國公使カ英國公使ヨリ聞知セル處ニ依レハ其後英國政府ヨリ本件ニ就キ種々問合セノ電報アリタル趣ナリトノ事ナリ尚米国公使ヨリ右訓令ニ基キ外交部ヘ送付セル書面写ハ五月五日同公使ヨリ入手セルニ依リ郵送致スヘシ

五八七 五月九日 松井外務大臣ヨリ  
在中国芳沢公使宛(電報)

東支鐵道問題ニ閲シ中國側ニ申入レラ行

一〇 東支鐵道管理問題 五八七 五八八

五八五 五月三日 松井外務大臣ヨリ  
在中国芳沢公使宛(電報)

ソビエト政府ガ東支鐵道ヲ担保トシテ英國銀

行ヨリ借款ヲ獲得セリトノ報道ニ閲スル件

第一七〇号

「リガ」出張上田ヨリノ報告ニ拠レハ三月二十二日同地「デイエニ」新聞ニ同月二十日倫敦電報トシテ「アルコス」会社ハ英國ノ一銀行ヨリ四百万磅借款ノ目的ヲ達シタル旨ヲ伝フルト共ニ「ラコウスキ」カ倫敦ニ於テ公債募集ニ閲シ交渉中同地諸銀行ハ労農政府カ東支鐵道ヲ担保ニ供シ同鐵道ニ対シテ有スル一切ノ権利ヲ提供スルノ条件ノ下ニ公債談判ヲ開クコトヲ提議シ同政府カ右条件ヲ容ルル場合ニハ英國諸銀行ハ更ニ最初ノ年ニ二千万磅、次年ニ二千万磅更ニ其ノ次年四千万磅ヲ同政府ニ貸与スルノ問題ニ付協議スルコトヲ「ラ」ニ約スル所アリタリ云々ト報道セラレタル趣ナリ右御参考迄ニ電報ス

五八六 五月六日 在中国芳沢公使ヨリ  
松井外務大臣宛(電報)

露亞銀行問題ニ閲スル仏國ヨリノ共同歩調ノ

議ノ進行ニツキ張作霖ノ談話報告ノ件

五八八 五月二十一日 川田閨東軍參謀長ヨリ  
武藤參謀次長宛(電報)

東支線問題ニ閲シソヴィエト側トノ予備の商

六〇九





大正十三年七月十四日

在哈爾賓

総領事 山内 四郎（印）

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

東支鉄道督弁問題ニ閔スル件

這般北京ニ於テ成立シタル露支協商ニ対シ奉天側カ北京政

府ヨリ何等ノ協議ヲ受クル處ナカリシ故ヲ以テ強硬ナル反

対的ノ態度ヲ示シタル結果先年中央政府ヨリノ任命ヲ受ケ

テ当地ニ來任シタル東支鉄道督弁王景春カ北京政府ト奉天

派トノ両方面ニ対シテ頗ル困難ナル立場ニ在リシカ過般王

督弁ハ遂ニ辞任ヲ申出シルニ至リタル為愈会弁ハ規定ニ遵

ヒ同督弁ノ職務ヲ代行シツツアル次第ナル處爾米其ノ後任

問題ニ閔シテハ諸説区々ニシテ愈会弁ノ昇任ヲ伝フルノ外

現任東省特別区行政長官朱慶瀾前吉黒督軍鮑貴卿及現任東

支鉄道董事袁金凱等ノ起用説モ盛ニ喧伝セラレツツアリシ

カ最近當地蔡道尹兼交渉員荒書記生ニ対シテ該督弁ハ奉天

側ノ勢力支持ノ上ニ好都合ナルト共ニ一方北京政府トノ関

係ニ於テモ良好ナル者ナラサルヘカラサルヲ以テ其ノ人選

ハ容易ニ決定ヲ見ルニ至ラサルヘク結局愈会弁ハ露支正式

公第三七六号 在ハルビン山内総領事ヨリ

五九六 七月十六日 在ハルビン山内総領事ヨリ

東支鉄道幹部職員ノ更迭説ニ閔スル件

（七月二十九日接受）

大正十三年七月十六日

在哈爾賓

総領事 山内 四郎（印）

東支鉄道幹部職員更迭説ニ閔スル件

最近莫斯科ヨリ交通部關係ノ職員ノ往来頻繁ニシテ新聞紙

上ニハ是等ハ皆東支鉄道暫定管理協約後直チニ東支鉄道ノ

要職ニ就クモノナリト「イワノフ」技師ノ鐵道管理局長就

任ヲ初メ会計課長、商業部長、用度課長、營業課長其ノ他

ノ候補者ノ氏名スラ喧伝セラレ世人ハ之ヲ目シテ東支鉄道

ニ一大変革ヲ來スヘシトノ杞憂ヲ抱キツツアリ奉天ニ於ケ

ル會議モ未タ具体的曙光認メラレス且又交渉順調ニ進ミツ  
ツアリト仮定スルモ奉天側カ東支ニ対シテ本社幹部ノミナ  
ラス管理局方面ニモ着々其ノ実勢力扶植ニ努ムル以上世上  
ニ伝フル如ク重要ナル椅子ヲ勞農側カ勝手ニ定メタル通ニ  
割愛スヘキヤハ疑問ト思考セラル處當地駐在勞農代表  
「ラキーチン」ハ此風説ニ閔シ「ルーポル」記者ニ答ヘテ  
曰ク莫斯科ヨリ來着スル諸士ハ勞農政府ニ於ケル重要ナル  
官吏ニシテ孰レモ來ルヘキ露支會議ニ於テ専門委員トシテ  
列席スヘキ目的ヲ有シ居リ東支鉄道管理局ニ入りテ如何ナ  
ル職責ニ就クヤ否ヤ今日未定ニシテ今後モ統々此種ノ官吏  
來ルモ孰レモ「カラハン」代表ノ指揮ニ入ルヘキモノナリ  
次キニ勞農側ヨリモ東支鉄道ノ幹部ニ職員ヲ任命セラルヘ  
キコトハ明カナルモ之カ為ニ東支鉄道ノ運行ニ何等変改停  
頓ヲ見ルカ如キコトナシト断言ス現在東支鉄道ノ從業員ニ  
シテモ現在白党ニ何等關係ナク且職務ニ忠実ナルモノハ其  
ノ職ニ安ンシテ可也何トナレハ勞農政府カ今尚専門家ノ欠  
乏ヲ感シツツアルコトトテ其ノ職分ヲ間ハス専門家ヲ重宝  
シ居レリ彼等ヲ閑却スルコトナカルヘシ故ニ「カリーナ」  
(車輛課長)「オフェンベルグ」(鐵道副長官)「アレク

サンドロフ」(保線課長)各技師其ノ他政治的問題ニ超然  
トシテ職務ニ忠実ナル人々ニ対シテハ現職ニ止マル様提言  
セラルヘシ吾人ノ推定ニテハ現在東支鉄道重要職員中当然  
罷免セラルヘキハ二十人ヲ超エサルヘン此等ノ人々ハ白党  
團体ニ公然與ミシ勞農ヲ敵視スル証拠歷々タルモノノミナ  
リ彼等ハ東支鉄道ノ新執行委員会カ其ノ職能遂行ト同時ニ  
直チニ革職セラルヘシ  
又莫斯科ヨリ來着セル東支鉄道幹部候補者連モ豪語シテ曰  
ハク「ソヴェートロシヤ」カ東支鉄道ノ運行ニ管掌セント  
スルハ其ノ經營ヲ破壊センカ為ニ非ス其ノ經營又ハ産業ノ  
發展ヲ講シ露國ノ福利増進ヲ計ルニ外ナラス「ソヴェー  
ト」政權力施政七年ヲ経過シ乍ラ正シク組織立テル商業的  
企画ヲ荒廃ニ帰スヘシト杞憂スル人々ハ露國ノ内的生活ト  
懸ヶ放れ着々進メツツアル創造的生活ヲ知ラサル迂人ノミ  
又幹部ノ人選ニ付兔角ノ噂アルモ莫斯科政府ハ鐵道事業ニ  
経験アル優秀ノ専門家ヲ派遣シ居レリ人員更迭カ奈辺ニ及  
フヤ明言ヲ避クルモ大異動ヲ生スルコトハ万無之革職セラ  
ルル者ハ「ソヴェート」政權ニ対シ絶エス敵対ヲ示シ来レ  
ル輩ノミニテ吾人カ忠実ニ職務遂行シ來レルト認ムル人士

會議ノ結了ヲ見ル迄此儘督弁ノ職務ヲ代理スヘント観測セ  
ラル旨ヲ語リタル趣ニ有之候

右御参考迄及報告候 敬具

本信写送付先 在支公使 奉天總領事

ハ将来ニ於テ其ノ儘採用セラルヘン云々

以上ハ人心不安ヲ一掃スル為ノ勞農側宣伝ト見ラレサルニ  
非サルモ既ニ露支基本仮協定ニ謙讓ヲ示セル勞農トテ東支

ニ対シテモ露骨ナル斧鉄ヲ加ヘルコトナカルヘク東支長官  
ニハ「イワノフ」技師ヲ据ユルコト既ニ久シクヨリ確定セ  
ル為之ヲ変更シ難ク從ソテ「オストロモフ」ハ更迭後欧露  
ニ呼ヒ戻サレ鉄道方面ノ重要職ニ就カシムヘシ云々ノ風説  
モ盛ニ喧伝セラレ居リ同人ノ手腕ニ対シテハ相当ノ敬意ヲ  
払ヒ居レルモノノ如シ然ルニ「ラキーチン」カ所謂善良分  
子ト見ル現在ノ東支鉄道副長官「オフェンベルグ」氏カ當  
館諜報員ニ答ヘタル東支鉄道觀ニヨレハ

一、露支協定ノ結果東支鉄道ニ対シ東三省官憲力事實上政  
策ヲ変更セルカ如キ跡ナシ

一、奉天會議ニ東支督弁公署ヨリ代表者出席セルモ鉄道庁  
ニハ何等消息ナケレハ奉天會議ノ結果及成行ヲ知ラス（此  
点多少不安ノ体ニ見エタリ）  
一、目下ノ場合余ハ只退職命令來ル際事務ヲ引継キ退ク時  
ヲ待ツノミ（註、氏ハ波蘭人ニシテ東支ニ勤務二十五年ニ  
達シ祖国ノ独立後帰心ヲ生シ居レルニ付割合ニ職ニ恋々タ

ル心ナシ）

一、東支鉄道問題ノ解決ハ非常ニ困難ナルヘク最モ解決ノ  
簡単ナル方法ハ東三省官憲之ヲ全部買収シ現在ノ露國從業  
員ヲ以テ運行ヲ持続スルコトニアルモ支那現在ノ財政狀態  
ニテハ斯ル買収論ハ實現シ得ヘカラス

一、勞農官憲力實際ニ一部ノ力ヲ以テ東支鉄道ヲ乗取ラン  
トスル際ニ於テ日本及仏國ノ外交的抗議力事實如何ナル力  
ヲ示スヤ仏國ハ極東ニ武力ヲ有セス日本ハ武力ヲ以テ抗議  
ニ實現ヲ計ル事ナカルヘント想像ス云々

尚新聞紙上散見ノ東支鉄道ヘノ候補者顔触左ノ通ニ有之候  
セレブレヤンニコフ（労働国防會議ヨリ派遣セラレ極東視  
察シタルコトアリ）東支本社重役

イワノフ技師、東支長官  
マルク・イワン・ウキッチボリショフ、秘書役  
アノーヒン、秘書役次席

エイスモレト交通技師、鉄道副長官  
イ・エフ・コースチン、用度課長

マルトフ、營業課長

モロツオフ、会計課長

クレヴッヂ技師（帝政時代ノ交通技師ニテ鉄道ニ多年経験

アリスト）

デイキー（現駐哈烏鉄商業部代表）商業部長

以上ハ本件問題ニ就キ全般ヲ通シテノ觀察ニ無之モ双方ノ  
見解中勞農側ハ東支乗取ヲ当然來ルヘキ既定事實ト見做シ

他ハ奉天會議ニ一縷ノ望ヲ嘱シ何等カ新展開ヲ夢想スルニ  
似タルノ感有之候ニ付御参考迄此段及報告候 敬具

在英國林大臣使ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

ソヴィエト政府ノ露亞銀行株ノ大量買付二閑  
シタイムズ報道ノ件

第三三一号

十九日ノ「タイムス」ハ労農政府カ今回倫敦在住ノ英國人  
及「ウクライナ」人ノ名ニ於テ行動セル二名ノ在巴里露國  
資本家ノ仲介ニ依リ多量ノ露亞銀行株ヲ買入レ同銀行ニ於  
ケル優越ナル地位ヲ獲得スルニ至リタルカ右買収ノ目的ハ  
之ニ依リ法律上同銀行ニ属スル東支鉄道ヲ处分スル完全ナ  
ル権利ヲ得ントスルニアリ云々トノ通信ヲ掲ケ居レリ  
併、獨、「リガ」ヘ郵報セリ

一〇 東支鐵道管理問題 五九九 六〇〇 六〇一

六一八

ニ照ラシ然ルヘキ意見ヲ付スルハ可ナリトモ考ヘラル為念  
奉天、哈爾賓ヘ転電セリ

五九九 七月二十一日 在中國太田臨時代理公使宛(電報)

六〇一 七月二十四日 在ハルビン山内總領事ヨリ

幣原外務大臣宛

哈爾賓土地課ノ金庫封印撤去問題

六〇一 七月二十四日 在ハルビン山内總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛

東省特別区地畝管理局ノ布告文送付ノ件

付属書 右布告文

公第三九〇号

(八月八日接受)

第四六一号

在哈爾賓

貴電第六一三号ニ閲シ

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

既ニ關係國代表者間ノ話合經リタル以上該訓令発送ニ同意  
セラレ差支ナシ

右哈爾賓ヘ転電シ米國側提案ノ趣旨ニヨリ處理シ差支ナキ  
旨本大臣ノ訓令トシテ付記セラレタシ

六〇〇 七月二十二日

幣原外務大臣ヨリ  
在ハルビン山内總領事宛(電報)

土地課書類封印ノ現状維持ニツキ北京ニ転電

東省特別区地畝管理局ニ於ケル布告ニ關シ報告ノ件  
当地支那官憲側ニ於テ客年八月ノ交東支鐵道土地課ノ廃止  
ヲ強要スルト共ニ東省特別区地畝管理局ナルモノヲ開設シ  
テ重大ナル國際問題ヲ惹起シタリシカ今回同地畝管理局ニ  
於テハ局長張煥相(濱江鎮守使兼護路軍參謀長)ノ名ヲ以  
テ別紙写ノ如キ布告ヲ發シタルニ付右布告文並ニ同訳文相  
添此段及報告候事御查閱相成度申進候 敬具

本信写送付先 在支那公使、在奉天總領事

(付属書)

東省特別区地畝管理局佈告

封印現状維持ニ関スル往電第四六号ハ北京ニ転電済ナリヤ  
右転電ノ有無當方及北京ニ電報アリタシ

ノ有無問合セノ件

第五二号

在支那公使、在奉天總領事

封印現状維持ニ關スル往電第四六号ハ北京ニ転電済ナリヤ  
右転電ノ有無當方及北京ニ電報アリタシ

六〇一 七月二十七日 在ハルビン山内總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

暫維現状從未紛更中俄會議刻正進行特區地畝解決有期屆時  
某項地段應行租放何者為市政公益及地方之用自能妥籌劃分  
至路局以前計画各項市政暨公益用地亦應俟會議解決後并案  
核弁以免紛歧除已呈

不可トスル旨在北京自國公使宛電報ノ件

別電 同日在ハルビン山内總領事発幣原外務大臣宛電報セ

第一二二号

右同伴

第一二〇号(至急)

(七月二十七日接受)

本官發在支公使宛電報

第五五号

東省特別区地畝管理局布告

昨年八月一日本局成立シテヨリ今日ニ至ル迄特區地畝ニ對  
シテハ暫ク現状ヲ維持シ來リテ変更ナカリキ今ヤ支露會議  
正ニ進行中ニシテ特區地畝ノ解決近キニ在リ而シテ之力解  
決ヲ見ルニ及シテハ貸下地、市政用地、公共用地等ノ地区  
割夫々決定スルニ至ルヘシ尚以前路局ノ計画ニ係ル各種ノ  
市政並ニ公共用地ハ是レ亦會議ノ解決ヲ俟テ同時ニ処理セ  
ラルヘシ右布告ス

尚本官ハ前記貴電第一九号ヲ七月十九日受ケ取レルモ仏米  
領事ハ七月二十三日朝英國領事ハ七月二十四日夜接到セル  
ヲ以テ本官モ七月二十三日接到ノコトトナシ置キタリ

大臣、奉天ヘ転電セリ

局長 張煥相

(右訳文)

## 1〇 東支鉄道管理問題 KOII

K1〇

(別電)

七月二十七日在ヘルシノ山内総領事發幣原外務大臣宛電報第  
一一一號  
四國領事ハ土地課書棚封印撤去ヲ不可レスル旨在北京田国公  
使ハ電報ノ件

Tetsuchoshun, 1. 07 p.m., July 27, 1924  
Received, 5. 00 p.m. " "  
Gaimudaijin,  
Tokio,

第一二一號

本官発在支公使宛電報

第五六號

Referring to your telegram dated July 23rd, my French, American and British colleagues and I are of the opinion that to remove the seals at the present time would cause uneasiness in local business and railway circles, make the maintenance of the status quo of the railway more difficult, give the Chinese authorities a further pretext for continuing their attacks against the present railway administration which have recently

ヲ唱へ出シタルハ何等米国政府ヨリ特別ニ断然タル訓令ニ接セルカ為メニアラサルラシク全ク貴地米国公使館ニ多年在勤シ常ニ小策ヲ弄スルヲ得意トスル「ペック」ノ見解カ其因ヲ為シタルモノラシク同人ト共ニ当地方ニ旅行セシ際ニモ既ニ封印ノ件ニ關シ非常ニ米国領事ノ措置ヲ非難シタル趣ニテ今回モ米国政府ヨリハ米国領事ニ対シ直接ニモ又在支公使ヲ通シテモ訓令來ラス唯本官宛電第一九号ノ通ノ同文電報ヲ北京ヨリ接受セルノミノ由ナルニ付右談話ニ基キ考フルニ今回ノコトハ全ク北京ニ於テ「ペック」「ハッチ」ノス」ノ一派カ何カ為ニスル処アリテ初メ出シタルコトト推測セラル尚今ニ於テ封印ヲ撤去セストモ必要ノ場合ニハ必ス四大國ノ体面ヲ傷ケサル様撤去ヲ為シ得ルコトハ四國領事ニ於テ十分確信ヲ有スル次第故向後ハ重ネテ領事ヲシテ此地方的影響ノ大ナル問題ニ対シ圧迫的ニ決行セシメラル様ノコトナク從来ノ通暫ク地方問題ニ付テハ地方領事ノ見解ヲ聞カルル様他国代表者ヲ御操縦アル(脱)特ニ御依頼ス「オストロモフ」初メ我方ノ態度ニハ非常ニ感謝シ居リ且ツ支那側トノ連繫モ頗ル良好ニシテ決シテ体面ヲ害セラル様ノ虞ナク又此事態不定ノ際ニ於テ東支鉄道現幹部

been renewed, encourage them perhaps to attempt again to secure control of the title deeds and other valuable documents of the Railway.

It is believed that, if and when the present administration of the Railway, which is constantly in close touch with my colleagues and myself, is actually replaced by Soviet-Chinese administration, the seals can be removed without embarrassment or difficulty.

在支公使及奉天ヘ転電セリ

Yamanouchi

KOII 七月二十七日 在ヘルシノ山内総領事ヨリ

幣原外務大臣宛(電報)

四國代理公使ガ突然封印撤去ヲ聖ト田ハタル裏

第五七號

本官発在支公使宛電報

第一二二號

一十五日四國領事會議ノ後ニ於テ米国領事カ極秘トシテ本官ニ内話スル処ニ依ルニ今回米国代理公使ガ突然封印撤去

カ我ニ好意ヲ有スル事ハ既ニ其実例ニシカラサル如ク我方ニ具体的利益ヲ与フル次第故其辺モ篤ト御含ミ置ラズ請フ外務大臣、奉天ヘ転電セリ  
(長春經由大正十三年七月二十七日后)、五〇(分発)

K1〇 七月二十一日 在中国太田臨時代理公使ヨリ

幣原外務大臣宛(電報)

金庫封印ノ撤去ニ関スル米国公使ノ提案並ニ東支鉄

道問題ニツキ共同抗議ヲ行フベハトノ仮提案ノ件

別電一

同日在中国太田臨時代理公使發幣原外務大臣宛電

報第六四一號

米國公使提案ノ金庫封印早期撤去方ニ関スル電文

案

二

同日在中国太田臨時代理公使發幣原外務大臣宛電

報第六四一號

仮提案ノ東支鉄道問題ニ関スル共同抗議電文案

第六四〇號

(八月一日接受)

七月三十日仮提案ノ東支鉄道問題ニ關スル各國ノ權利ヲ危殆ナラシムモノナルニ依リ從來關係國ハ個々ニ抗議シ居ルモ此際更ニ關係國

## 1〇 東支鐵道管理問題 六〇四

六一三

代表者ニ相談ノ上共同シテ最モ有効ナル措置ヲ講セヨト命シ來リタル趣ヲ述ヘ本官ニ於テ異議ナキニ於テハ首席タル米國公使ニ相談シ哈爾賓ノ金庫封印事件ニ関スル會議ノ際共ニ討議シタキ旨ヲ述ヘタルニ依リ本官ハ右共同措置ニ関スル確定意見ハ一應研究ノ上ナラテハ答ヘ難キモ會議ニハ異存ナキ旨並封印事件ニ付テハ出先領事ノ意見ニ重キヲ置キ今回ノ決議（哈爾賓發本官宛電報五六号）ヲ承認スルト共ニ其ノ（不明）領事団ノ裁量ニ委スルコト適當ト信スル旨ヲ付言シ置キタル處該會議ハ三十一日米國公使館ニ開カルルコトトナリ（英國公使モ出席）最初封印問題ヲ討議セルカ米國公使ハ封印撤去カ勞農側圧迫ノ結果ナリト見ラルルカ如キ事態ヲ惹起スルハ是非避ケタキニ付領事団ノ決議ハ兎ニ角自分ハ右封印撤去ハ出来得ル丈早ク決行スルコト必要ト考フル旨ヲ述ヘ英國公使ハ撤去ノ曉ハ支那側カ直ニ占領スヘキ処初メ封印ハ之ヲ防ク為ナリシコトヲ指摘シ本官及仏代理公使ハ前頭本官ノ説ヲ主張シ種々論議ノ末米國公使別電第六四一号ノ電報案ヲ作り同意ヲ求メタルニ依リ先ツ之ナラハ山内總領事既報（哈爾賓發本官宛第五七号）ニ近キモノト認メ同意シ置キタリ

ノ立場ハ前記ノ通説明シアルニ付「ジョイント・ノーム」署名セサルコトスルモ何等差支ナキ次第ナリ、何分ノ

儀御電訓ヲ請フ

（元電一）

七月三十一日在中國太田臨時代理公使發幣原外務大臣宛電報  
第六四一號

金庫封印ノ早期撤去方ニ関スル電文案

Peking, 8. 45 p.m. 31. Jul. 1924.

Received, 5. 00 a.m. 1. Aug. "

Gaimudaijin, Tokio.

第六四一號

While ministers accept conclusion of Consuls that present time is not opportune for removal of seals, they desire to impress Consuls with their conviction that seals should be removed at earliest practicable date. As to this date they would desire to be advised by Consuls.

Ohta

（元電二）

七月三十一日在中國太田臨時代理公使發幣原外務大臣宛電報

1〇 東支鐵道管理問題 六〇四

次ニ共同措置云々ノ件ニ關シテハ仏代理公使ニ於テ華府

決議ヲ根拠トセル連合抗議仏文案ヲ提出シ一應説明ヲ加ヘ大体ニ異議ナキモノノ如ク直ニ案文ノ内容ニ付意見ヲ述べタルニ依リ本官ハ未タ案ノ内容ニ立入り議論スルヲ得ス而シテ本官ノ感スル處ニ依レハ日本政府ハ共同抗議ニ署名スルヲ許ササル可シ、蓋シ華府會議決議ノ閑スル限り日本ノ關係ハ諸國ト同一ナルモ滿州ニ於ケル日本ノ立場ハ聊力他国人ト異ルモノアリ為ニ先般モ諸國ノ抗議ト態様ヲ異ニセル概括的留保ノ公文ヲ送リタル次第ニシテ今此共同抗議ニ加ハルニ於テハ幾分右留保ノ効力ヲ減殺スル点アリト述べ本官トシテハ先ツ以テ政府ノ訓令ヲ仰ク必要アルコトヲ付言シタルニ仏ハ実ハ有効ナル共同措置ト云フモ別ニ方法ヲ指定シアラス自分トシテハ連合抗議カ或ハ適當ト考ヘ提案シタルモノニシテ此点ハ更ニ本国政府ニ問合スモ可ナリト述ヘ更ニ思案ノ後本件ノ要点ハ連合ニ在リ而シテ（C.）ニ臨ムニハ先ツ「ジョイント・ノーム」カ一番適當ト思バルル旨ヲ述ヘ種々協議ノ結果右仏文案ヲ基礎トシテ別電第六四二号ノ英文案ヲ作り各自国政府ニ送リテ訓令ヲ仰クトトナリタルニ依リ本官モ此点ニハ同意シ置キタルカ我方

第六四一號  
東支鐵道問題ニ關スル共同抗議電文案

Peking, July 31st '24. 11. 50 p. m.

Rec'd, August 1st '24. 10. 45 a. m.

Gaimudaijin, Tokio.

第六四一號

Representatives of United States, Great Britain, Japan and France, acting under instructions from their Governments, have honor to recall to His Excellency Minister for Foreign Affairs solidarity which exists between China and Powers Signatories of Washington Conference with regard to principle which constituted (不明) of policy adopted by Conference.

They desire especially to refer to two resolutions of Washington Conference concerning Chinese Eastern Railway and to emphasize obligations which those Resolutions impose upon Chinese Government. (不明)

In addition, they wish to call special attention of His Excellency to serious consequences which would ensue

六一三

# 一〇 東支鐵道管理問題 KOH

六一四

from a change in economic and legal status of (脫) Railway, should such change impair administrative integrity of China and principle of equal opportunity.

In view of signature of Sino-Russian Agreement of May 31st, Representatives of Four Powers would be glad to receive satisfactory assurances on above-mentioned points for communication to their Governments.

奉天、哈爾賓へ転電セリ

(右和訳文)

東支鐵道問題ニ関スル大正十三年七月二十一日

北京四国公使會議決議記文

亞米利加、英吉利、日本並仏蘭西ノ代表者ハ本国政府ノ訓令ニ基キ外交總長閣下ニ對シ華盛頓會議ニ於テ採用セラレタル政策ノ基礎ヲ成セル原則ニ關シテハ支那ト華盛頓會議調印國トノ間ニ連帶責任ノ存スルコトヲ指摘スルノ光榮ヲ

前記代表者ハ特ニ東支鐵道ニ關スル華盛頓會議ノ二決議有ス

ヲ指摘シ且該決議カ支那政府ニ課セル義務ニ付切言セント欲ス  
尙前記代表者ハ同鐵道ノ經濟上並法律上ノ地位ノ変更ニ依リ支那ノ行政主權及機會均等主義ヲ侵害スルカ如キコトアラハ此ノ如キ変更ヨリ生スヘキ重大ナル結果ニ付閣下ノ特別ノ注意ヲ喚起セムト欲ス  
五月三十一日ノ支露協定ノ調印ニ顧ミ四国代表者ハ本国政府ニ報告スル為メ前記ノ諸点ニ關スル満足ナル保障ヲ受クルヲ欣幸トスベシ

Ohta.

六〇五 八月十日 在ハルビン山内總領事ヨリ

幣原外務大臣宛

東省特別区地畠管理局ノ貸下地ニ關スル布告

付屬書 民國十三年七月八日付右布告文

公第四二二号

(八月二十一日接受)

大正十三年八月十日

在哈爾賓

外務大臣男爵 币原 喜重郎殿

總領事 山内 四郎 (印)

東省特別区地畠管理局ノ布告ニ關シ報告ノ件

曩ニ東省特別区地畠管理局ニ於テ特別区地畠問題カ露支會議ノ進捗ト共ニ近ク解決ヲ見ルニ至ルヘキ旨ノ布告ヲ發シ

タル次第ハ七月二十四日付公第三九〇号ヲ以テ及報告置キシ通ニ有之候處該布告ト相前後シテ同局ヨリ發布セラレタル東支鐵道土地課ノ貸下地ニ關スル布告(露支兩國文ニテ認メタル)ヲ今般同局ヨリ當館ニ送付越候ニ付右及御送付候間御查閱相成度此段申進候 敬具  
本信写送付先 在支那公使

(付屬書)

七月八日付張地畠管理局長布告文

(写)

東省特別区地畠管理局佈告十三号

為佈告事照得特區沿線地畠自上年八月一日本局成立起所有路局地畠處私擅放地作為無効業經剖切佈告在案現在地畠問題解決在即仍有私放私領情事殊屬有背功令為此重申禁令佈

告大眾知悉凡屬在此時期內其有中外人民在地畠處私領地皮非經本局核准有案一律認為無効其各知照此佈

局長 張煥相

六〇六 八月十二日 在ハルビン山内總領事宛 (電報)

封印撤去問題ニ關シ今後我方ノ執ルベキ態度

ニツキ訓令ノ件

第五八号

貴電第一二六号ニ關シ

一〇 東支鐵道管理問題 六〇七 六〇八

同電中 usurping the functions に々々 there is danger

of General Chang は々々 the earliest practicable date

the seals could be removed would be 以てハ天下ノ事態

並張作霖トノ関係等ニ顧ミ少シク言ヒ過キタルノ嫌アリ今

後事態ノ成行ニ応シテ措置ヲ講スル必要アル我方トシテハ

此際封印継続ノ理由ニ付余リ「コンミット」スルコトハ將

来ノ困難ヲ惹起スル所以ナルニ付今後本件ニ関シ領事団ニ

於テ決議ヲ為ス等ノ措置ヲ執ル場合ニハ成ルヘク理由ヲ付

スルコトヲ避ケ往電第四六号ノ趣旨ニ從ヒ措置セラル様

致シタシ

北京奉天ヘ転電アリタシ

六〇七 八月十三日

幣原外務大臣ヨリ  
在中國芳沢公使宛 (電報)

東支鐵道問題ニ關シテ共同抗議ニ参加差支ナ

キ旨回訓ノ件

第五一七号

貴電第六四〇号ニ関シ

東支鐵道問題ニ關シテハ我方ハ露亞銀行ノ主張ヲ支持スル  
仏國側ト同一歩調ニ出ツルコト困難ナルヘキ事情アルコト

ツキ報告ノ件

第六九五号

貴電第五一七号ニ關シ

英國政府ヨリハ共同抗議ニ參加方同意ソ來レル趣ノ處一方  
米國政府ハ既ニ単獨ニテ抗議ヲ提出シタル次第ニモアリ更  
ニ此種抗議ニ參加スルノ必要ヲ認メサルモ他ノ關係各國ニ  
シテ強テ共同抗議ヲ為サントスルニ於テハ參加スルモ差支  
ナシトノ意向ナルカ如シ併カモ代表公使「ベル」ハ當館員  
ニ對シ同官自身トシテハ成ルヘク本件共同抗議ノ計画ヲ不  
成立ニ了ハラシメタキ希望ナル旨申居タル由ナリ就テハ  
「ベル」ノ態度ヲモ考慮シ本件共同抗議ニ參加スルヤ否ヤ  
何レカニ決定スヘキニ付右子メ御含置アリタシ

六〇九 九月二日 在中國芳沢公使ヨリ  
幣原外務大臣宛

東支鐵道ニ關スル共同抗議ノ提出見合セニツ

キ報告ノ件

機密第四〇九号

大正十三年九月二日

在支那

一〇 東支鐵道管理問題 六〇九

六二六

ハ往電第一二九号ヲ以テ申進置キタル通リナルノミナラス  
我方ノ本問題ニ對スル關係ハ必シシモ列國ト同一ナラサル

ニヨリ或場合單獨ニ行動スル必要アルヘク從テ今後關係國

間ニ共同措置ヲ執ラムトスル場合ニハ右ノ点ニ就テハ注意

セラル様致シタキモ貴電第六四二号ニ依ル今回ノ共同抗

議案ノ内容ナラハ前記諸点ト抵触スルコトナカルヘキノミ

ナラス大体ニ於テ曩ニ我方ノ為セル留保声明ノ効力ヲ減殺

スルモノトモ思考セラレサルニ付關係國ヨリ更ニ申出アル

場合ニハ此等諸國トノ協調ヲ保持スル趣旨ニテ本件共同抗

議ニ參加セラレ差支ナシ

但我方カ本件共同抗議ニ參加スル結果露國側ニモ悪感ヲ与  
ヘ目下貴地ニ於テ進行中ナル日露交渉ニ大ナル惡影響ヲ惹

起スルカ如キ虞アル場合ニハ本件共同公文ノ發送ハ日露交

渉ノ成否カ判明スル迄之ヲ見合スヲ得策トスヘキニヨリ右

御含ノ上可然措置セラレタシ

奉天及哈爾賓ヘ転電アリタシ

六〇八 八月十六日

在中國芳沢公使ヨリ  
幣原外務大臣宛 (電報)

仏國ノ共同抗議提案ニ對スル米英側ノ反応ニ

特命全權公使 芳沢 謙吉 (印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

東支鐵道ニ關スル共同抗議方ノ件

本件ニ關シテハ貴電第五一七号御回訓ノ次第有之其後往電  
第六九五号ヲ以テ本使ニ於テ「ベル」ノ態度ヲ確メタル上  
共同抗議ニ參加スルヤ否ヤ決定スヘキ旨申進置候處八月廿  
六日本使「ベル」ヲ往訪ノ際本件抗議方ニツキ帝國政府ヨ  
リ回訓ニ接シタリトテ御來示ノ趣旨ヲ説明セルニ「ベル」  
ハ實ハ自分モ本国政府ヨリ本件ニ關シ略同様ノ訓令ヲ受ケ  
居ル所此際抗議ヲナストキハ又々「カラハン」ヨリ「カビ  
タリスト」トカ何トカ種々宣伝ノ用ニ供セラレ甚不愉快ナ  
ルニ付成ル可クハ共同抗議ノ發送ヲ沙汰止ミトセシメ度キ  
モ去リトテ此儘ニ為シ置クトキハ仏國代理公使ハ少カラス  
失望スヘシト述ヘ種々協議ノ末結局必要已ムヲ得サルニ至  
ル迄此儘ト致シ置クコト得策ナルヘク何レノ途英國公使ト  
モ相談ノ上決定スルコトトシ相分レ候然ルニ八月三十日英  
國公使館ニ日英米仏代表者會合シ本問題ニ談及セル際「ベ  
ル」及本使ヨリ各本国政府ヨリノ訓令ノ趣旨ヲ述ヘタル處  
英國公使ハ本国政府ヨリ共同抗議ニ同意方差支ナキ訓令ニ

# 一〇 東支鐵道管理問題 六一〇 六一

六二八

接シ居ル旨ヲ述ヘタルカ仏國代理公使ハ其後本国ヨリ何等ノ申越モ無キニ付今トナリテハ進ンテ共同抗議ノ提出ヲ主張シ兼ヌル様思料スル旨語リタル為本問題ハ當分此儘トシ置クコトニ各代表者ノ意見一致致候条右様御承知相成度此段報告申進候也

写送付先 奉天、哈爾賓

六一〇 九月十日 在仏國松島代理大使ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

中ソ協定成立後ノ東支鐵道ノ処分問題ニツキ日

本側ノ意向打診ノ為メド・ホウヤー訪日ノ件

第四〇六号 （九月十一日接受）

往電第三五七号ニ關シ「ド・ホウヤー」ハ二十日出發米國

經由日本ニ赴ク由ニテ來訪シタルニ付露亞銀行重役會議ハ

仏國法ニ依ル新銀行ヲ設立シ露亞銀行ノ事業ヲ承継セシメ

殊ニ支那ニ於ケル利權全部ヲ新銀行ニ移譲スルコトニ決シ

日仏銀行ハ新銀行株式募集ニ応スル趣（ギンスブルグ）

男ノ関場大藏事務官ニ対スル内話）聞キ及ヒタルカ事實ナ

リヤト尋ネタルニ右ハ同男ノ考案ナルカ決定シタル訳ニア

ラス元來露亞銀行内ニハ種々分子アリ「プロチフ」ノ如

在哈爾賓

総領事 山内 四郎（印）

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

東省鉄路督弁選任ト朱慶瀾ノ去就問題トニ關シ

報告ノ件

久シク懸案タリシ東省鉄路督弁ニハ其後奉直両派ニ都合好

キ前吉林督軍鮑貴卿力愈就任スヘシト伝ヘラレタリシカ最

近ノ情報ニ依レハ鮑ノ就任問題モ亦遽ニ立消トナリタリト

云フ右ハ鮑力龜ニ曹大總統ノ命ヲ承ケテ來奉ニ際張作霖等

ニ対シテ直隸派側ノ戰意ナキヲ告ケ頻ニ奉直和議ヲ勧説セ

シカ時局ノ進展ハ鮑ノ該調停ヲ裏切リテ奉直將ニ干戈ヲ交

シントスルノ形勢ヲ馴致シタリシカハ奉天幹部側ハ鮑ニ對

シテ不信任ヲ表スルニ至リタルト共ニ鮑自身モ亦立場ヲ失

ヒタルニ因ルモノナリト云フ斯くて鮑貴卿ノ督弁就任ノ儀

ハ中止セラルルコトトナレル結果シテ何人力督弁ニ就任ス

ヘキヤハ目下ノ處全然窺知シ難キ由ナリ

一方特別区行政長官兼護路軍總司令タル朱慶瀾ハ露支協商

成立後其善後策ニ關シ打合セノ為張作霖ノ招電ニ依リテ出

奉シタル儘今日ニ至ル迄帰任セサル為同長官ノ去就ニ就テ

ク労農トノ妥協ヲ計画スルモノアルト同時ニ仏國資本ノ保護ニ重キヲ置クモノアルモ自分ノ考ニテハ東支鐵道ニ關シ露支協定成立ノ今日ニ於テハ列國ヨリ支那ニ資本ヲ供給シテ同鐵道ヲ買戻サシメ間接ニ同鐵道ノ管理權ヲ得ル外同鐵道ノ労農化又ハ支那化スルコトヲ防クノ途ナシ而シテ本案実行ニハ最利害關係アル日本ノ意向ヲ確ムルノ要アリ自分ノ日本行ハ之カ為ナリ尚滿州ニ一支那會社ヲ設立シ之ニ露亞銀行カ自由処分權ヲ有スル東支鐵道ノ株（株式全部ノ三割他ノ七割ハ政府ノ許可アルニ非サレハ処分スルヲ得ス）ヲ讓渡スルノ案及滿州ニ實業會社ヲ設立シ之ニ露亞銀行ノ有スル利權ヲ讓ルノ案等ニ付テモ日本當局ト懇談ヲ遂クル積リナリト語レリ

ノ日本行ハ之カ為ナリ尚滿州ニ一支那會社ヲ設立シ之ニ露亞銀行カ自由処分權ヲ有スル東支鐵道ノ株（株式全部ノ三割他ノ七割ハ政府ノ許可アルニ非サレハ処分スルヲ得ス）ヲ讓渡スルノ案及滿州ニ實業會社ヲ設立シ之ニ露亞銀行ノ有スル利權ヲ讓ルノ案等ニ付テモ日本當局ト懇談ヲ遂クル積リナリト語レリ

英、独及波蘭へ贈送セリ

六一一 九月十日 在ハルビン山内總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛

東省鉄路督弁選任問題及ビ朱慶瀾ノ去就ニ關シ報告ノ件

機密第一一号

（九月二十四日接受）

大正十三年九月十日

本信写送付先 在支公使、在奉天總領事

六一二 九月十七日 在中國芳沢公使ヨリ  
幣原外務大臣宛

東支鐵道ニ關スル中ソ協定ニツキソ連側ニ申

入レタル抗議ニ対シ回答越シノ件

## 1〇 東支鉄道管理問題 K11

K11〇

使宛書翰写

東支鐵道ニ閔スル中ソ協定ニ対シ抗議リツキ回答ノ件

機密第四四八号

(九月一十九日接受)

大正十二年九月十七日

在支那

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿  
特命全権公使 芳沢 謙吉 (臣)  
件 名東支鐵道ニ閔スル露支協定ニ付露國側ニ申入ンタル抗議  
対スル回答ノ件

本件ニ閔シ左記書類及送付候也

甲印 七月十日付「カラハ」ヨリ本使宛

回答写

(付屬書)

七月十日付在中国カラハソ連大使ヨリ在中国芳沢公使宛

書翰写

東支鐵道ニ閔スル中ソ協定ニ対シ抗議リツキ回答ノ件

Embassy of the

Union of  
Soviet Socialist Republics

Peking

highest considerations.

L. Karakhan

His Excellency

K. Yoshizawa,

Envoy Extraordinary and

Minister Plenipotentiary of  
Japan.

K11〇 九月一十九日 在ヘルシン山内総領事ヨリ

幣原外務大臣宛 (電報)

報告ノ件

第一五一號

往電第一五〇号予定通九月一十九日午後11時半英國副領事

同行シ東支鐵道土地課重要書類箱ニ施シタル封印ヲ撤退セ

リ

在支公使、奉天へ転電セリ

K11〇 九月二十一日 在中国芳沢公使宛 (電報)

東支鐵道ニ閔ハソ連側ニ我方ノ権利利益留保

第一五一號

往電第一〇六号ニ閔シ

九月二十七日四国領事會議開催ノ結果九月二十九日午後三時三十分四国(首)席領事「オストロモフ」ヲ往訪シ何等

理由ヲ示サヌ單ニ封印解除寒行ノコトニ決定其レ迄ハ本件極秘トスルコトニ話シ合ヘリ

支、奉天へ転電セリ

(長春中継 九月二十八日前四、〇〇分発)

July 10, 1924.

Monsieur le Ministre,

In reply to your Note of June 7th, 1924, in reference to the Declaration of the Japanese Government with regard to the Chinese Eastern Railway, I have the honour at the instruction of my Government to request Your Excellency kindly to convey the following to the Imperial Japanese Government:

The Government of the Union declares that the question of the Chinese Eastern Railway is a matter entirely between the Union of Soviet Socialist Republics and the Republic of China, and that no other Power or citizens of any other Power can have any rights or interests in the Chinese Eastern Railway.

In view of this the Government of the Union cannot take to cognizance the Declaration of the Imperial Japanese Government.

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency, Monsieur le Ministre, the assurances of my

ヘ申入レ置カレタシ

(長春 九月三十日后九、三〇)

六三二

六一六 九月三十日 在ハルビン山内總領事ヨリ

幣原外務大臣宛(電報)

## 東支鐵道幹部ノ更迭ニ関スル情報報告ノ件

第一五四号

(十月一日接受)

奉露協商成立ノ結果東鐵幹部近ク更迭ヲ見ルヘク其ノ顔振

ニ付最近ノ情報ニ依レハ支那側ハ理事長ニ鮑貴卿理事ニ袁金鑑、范其光、劉哲、呂榮寰ヲ挙ケラレ現在ノ理事何守仁

ハ參贊トナリテ督弁公署ニ出テ多ク不在ナル可キ理事長ニ代ハリ現在ノ会弁ノ職ヲ代行スヘシ又露國側ハ副理事長

「セレブリヤコフ」首席理事ニ「ラキーチン」理事ニ「クルイシコ」等ノ任命ヲ見ルハ確ナル如キモ残余理事二名ノ

人選ハ未定ニシテ其ノ内一人ニ「ダニレフスキ」挙ケラレ得ヘキ旨並鉄道長官トシテハ「イワノフ」ノ選任ヲ見ル可

シトノ說多シ何分支那側理事中范其光ハ浦鹽總領事在任当

時勞農側ノ惑惑ヲ招キ居ルコトアル由ヲ以テ勞農側ニ於テ

ハ同人ノ就任ニ反対シ居ル由ナリ

公使、奉天ニ転電シ吉林、長春、齊々哈爾、滿州里へ暗送

セリ

六一七 十月一日 在奉天船津總領事ヨリ

幣原外務大臣宛(電報)

## オストロモフノ留任ニツキ張作霖ニ勧説ノ件

第三六〇号

(十月二日接受)

本官発哈爾賓宛電報

第四一号

(十月二日接受)

貴官発大臣宛電報第一五四号ニ閑シ鎌田滿鉄公所長ノ聞込

タル處ニ依レハ鮑貴卿ハ督弁ニ任命セラルヘキモ時局ノ關係上当地ニ止マリ張作霖ヲ補助スル必要アラハ赴任セサル

ヘキニ依リ袁金鑑督弁ノ事務ヲ代行スル為メ明二日頃出發

赴任ノ筈ナリト又貴電第七八号「オストロモフ」留任ノ件

ニ閑シテハ從来ノ關係ヲ熟知シ居ル阪東顧問ヲシテ直接ニ又袁金鑑ヲ通シ間接ニ夫々張作霖ヲ勧説セシメタルモ張

ハ鐵道長官ハ露國側ノ任命スル處ナルヲ以テ自分ノ自由意志ニ任スルコト能ハストテ容易ニ応スル氣色ナシ依テ本官

ハ更ニ張ニ對シ最後ノ勸告ヲ為ス所存ナルモ袁金鑑ハ鎌田ニ對シ現ニ「オストロモフ」ハ公金費消ノ嫌疑ヲ受ケ居ル

ニ付右嫌疑力解ケタル後ニ至リ更ニ何分ノ斡旋ヲ為スヘシ

ト語リタル趣ナルニ顧ミ「オ」ノ留任ハ頗ル困難ナルヤニ

思考セラル  
右今日迄ノ経過不取敢電報ス

外務大臣、北京、長春へ転電セリ

六一八 十月二日 在奉天船津總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

## オストロモフノ留任運動ハ奏功ノ見込ナキ旨

報告ノ件

第三六二号

(十月三日接受)

本官発哈爾賓宛電報第四二号

往電第四一号ニ関シ

本官ハ十月二日張作霖ニ面会シ「オストロモフ」カ東支鐵道ノ事情ニ精通シ居ルコト其他種々ノ關係ヨリ同人ヲ引続

キ留任セシムルコト得策ナラスヤ是レハ哈爾賓ニ於ケル各國領事ノ一致セル意見ナル由ヲ述ヘタルニ張ハ満鉄ニテモ

同様ニ「オ」ノ留任ヲ頻リニ慾漁スル処アリシカ露國側ノ人繰リハ露國側ノ意向ニ一任スル外ナク自分ヨリ彼是レ容喙スルコト困難ナリト答ヘタリ尚英國總領事力本官ニ語りタル処ニ依レハ「オ」ハ支那側ニ於ケル露國通トシテ目下

人繰リハ露國側ノ意向ニ一任スル外ナク自分ヨリ彼是レ容

喙スルコト困難ナリト答ヘタリ尚英國總領事力本官ニ語り

タル処ニ依レハ「オ」ハ支那側ニ於ケル露國通トシテ目下

電ノ件

オストロモフノ留任運動ニツキ事情説明方訓

第六五号

在奉天總領事發貴官宛往電第四一号ニ拵レハ同官宛貴電第



Gaimudaijin, Tokyo.

第一六五號

在支公使宛電報第八九號

The arrests of Ostromoff, Gondatti and Mihailoff have created a great state of excitement at Harbin, General Gose-Ching-Lan who, acting under instructions from Mukden, locally ordered the arrests, has informed the Japanese Consul General, the French, American and British Consuls that no charges have been legally made against them, but he intimated that the new board of directors of the Chinese Eastern Railway was searching for evidence against them.

My French, American and British consular colleagues and I have interested ourselves in this case on the grounds of humanity, and in order to endeavour to prevent serious disturbance of peace and foreign business by such arbitrary acts on the part of the local Chinese authorities in the future.

It is believed that only strong representations made to Marshal Chang-Tso-Lin at Mukden can secure for the prisoners humane treatment and a speedy consideration of their cases. I recommend that such representations be made through the Consulate General at Mukden if the Legation deem such action proper.

大臣奉天へ転電  
Yamanouchi  
Harbin

~~~~~

K114 十月四日 在ヘルシン山内總領事ヨリ  
イロノア新鐵道長官ノ就任挨拶ニ關八事進ノ件

公第五一四号

大正十二年十月四日

(十月十五日接致)

在哈爾賓總領事 山内 四郎 (臣)

外務大臣男爵 幣原 嘉重郎殿

イワノア新鐵道長官ノ就任ニ関スル件

十月三日東支鐵道公社理事會ノ組織編成替後管理府方面ニモ長官副長官ノ更迭ヲ見タル次第ハ既電ノ通ナル處イワノ

フ新鐵道長官ハ即日鐵道從業員全部ヲ召集就任挨拶ノ辭ヲ述ヘタルカ其ノ言辭ハ頗る峻厳ニシテ新長官今後ノ執務振ハ秋霜烈日ノ概アルヲ覺エシメタリ先づ勤務員カ六時迄ニ參集スベキヲ命シ欠席者ハ長官命令ノ違反者ト見做スベク宣告シタル後一同參集スルヤ本日ヲ期トシ東支鐵道ハソヴヒト露國政府ノ直接監督及管理スル所トナレリ從テ鐵道上ノ業務ハ全テソヴュット露國ニ於テ行ハル諸般ノ主義ニ則リテ行ハサル可ラス余ハ就任勿々ニシテ今日迄執リ来る細目ノ業務ニハ通曉セナルモ余カ探査ン得タル範囲ニテハ東支ニ於テハ業務ノ方針カ労農ニ行ハレツツアルモノト遙ニ懸隔アルヲ覺ニ須ラク各員ハ業務ニ与ルニ当ツテ自己ノ力ヲ傾倒セサル可カラズ「オストロヤハ」「ゴンダッヂ」ノ拘引ノ結果統イテ身辺ノ危虞ヲ感スルモノアルヘキモ是以上鐵道關係者ニ対シテハ何等処分ノ及フベキコトナキヲ断言スルト同時ニ諸君ノ中ニハ新露西亞ト根本的ニ許シ得サル敵少カラサルコトハ余ノ明知スル所斯カル人々ハ結局退職ノ外ナカルシ但シ此点ニ於テ昔日ノ敵對觀念ヲ

右御参考迄ニ此段及報告候 敬具

本信写送付先 在奉天總領事、在滿州里領事代理

九四  
十一五 十月五日(着) 在ヘルシン山内總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛 (電報)

東支鐵道ノ新幹部ニヨル初ノ理事會開催ノ模

# 一〇 東支鐵道管理問題 六二六 六二七

六三八

## 第一六七号

張作霖ノ命ニ依リテ東鉄新幹部等カ十月三日最初ノ理事会ヲ開催セル次第ハ往電第一五九号ノ通ナル處其席上ニ於テ労農側カ任意ニ東鉄管理正副局長ヲ任免シ得ルコト及東鉄ニ対スル露亞銀行ノ権利ヲ認メサルコト等ヲ協議セル由ナルカ同銀行側ハ之ニ対シテ強硬ナル「プロテスト」ヲ為シリト云フ

支、奉天、長春、吉林ヘ転電セリ

(長春中継 十月五日后四、一五分発)

六二六

十月五日

在奉天船津總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

オストロモフ等ノ駅放斡旋運動ハ姑ク成行ヲ

觀望スルコト然ルベキ旨申進ノ件

第三六八号

(十月六日接受)

本官發在哈爾賓總領事宛電報第四三号

貴電第九一号ニ閑シテハ既ニ往電第四二号ヲ以テ申進シタル通リ極力張作霖ノ再考ヲ促シ其ノ後松岡理事ヨリモ説得

スル所アリシカ張ハ元來労農側ヨリ「オ」外二十名ノ引渡ヲ要求シタルモ支那側ニテハ幾多交渉ノ末漸ク三名ニ減セ

(一) 本線ノ引渡ハ浦潮一般露支人ヲ歓喜セシメタルカ是レ同線ニ白党ヲ置キ吾人自然ノ経済発展ヲ妨ケ露支條約ノ実現ヲ極力阻止シタル帝国主義者等ノ企図カ打撃サレルトキカ吾人ニ利スルヲ語ルモノニシテ曩ニ労農公館ノ還付アリ今次又張作霖ノ條約承認ニ依ル本件出現ヲ見タルハ自然ノ理ト云フヘシ大西、太平両洋ヲ結合スル露支両国一万露里ニ亘ル富裕ナル好地域ノ連絡ハ吾人建設ノ新 factorニシテ是レト同時ニ「ヴェルサイユ」華盛頓ニ於テ吾人及小弱国ニ対シ張ラレタル網ニ対スル一大打破タリ露支條約ノ実施ハ吾人ノ大勝利ニシテ我設施ノ公正ヲ新ニ語ルモノナリ

(二) 本件ヲ單ニ經濟的見地ヨリ論スルモ労農側ノ東支線經營策ハ北滿農作物ヲ初メ欧露、西比利亞地方產物ノ海外輸出乃至沿海県地方ヘノ移出及是レト反対ノ輸入ニ於テ大連ヨリ遙ニ有利ナル浦潮經由ヲ利用サレ労農一手ニテ支那トヨリ西比利亞ノ投資及烏蘇里線協調ノ結果露支両國殊ニ北滿西比利亞極東就中沿海浦潮地方ノ蒙ムル經濟上ノ利益ハ莫大ナリ

尚同日同紙ハ撫順炭坑ニ於ケル労働者待遇カ滿鉄當局ノ吹聴スルカ如ク良好ニ非ストテ同炭坑ニ使用セル露國労働者

シメ得タル次第ニテ今回奉露協約調印ノ稍遲延セシモ之力為ナリ又三名ヲ拘禁スルハ寧ロ三名ノ安全ヲ保護スル趣旨

ニ外ナラスト答ヘタル由ナリ昨四日夜更ニ菊池少將ヨリモニ対シ種々利害得失ヲ説明シテ勸告スル所アリシモ張ハ容易ニ承諾スル模様ナキノミナラス余リ日本側各方面ヨリ執拗ニ運動スル為ニヤ稍不快ナル面持ナリシ由ナリ当地ニ於ケル英米領事カ案外冷淡ナル態度ナルニ拘ハラス独リ日本側ニ於テ余リ熱心ニ斡旋スルコトハ露支双方ニ奇異ノ感

ヲ懷カシメ却テ不得策ナルヤニ思料セラルルヲ以テ本件ハ今姑ク成行ヲ觀望シ臨機ノ措置ヲ講スル方然ルヘキカト思考セラル

大臣、公使ヘ転電セリ

六二七

十月五日

在浦潮渡辺總領事代理ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

東支鐵道管理權ノソヴィエト側ニ引渡ニ閑

ル當地新聞論調報告ノ件

第三二七号

(十月六日接受)

往電第三二六号東支線ノ引渡ニ閑シ縣機関紙ハ五日ノ社説欄ニ於テ大要左記ノ説ヲ掲ケタリ

(主ニ白党) 中ノ赤側嫌疑者カ組長タル元白党將校ノ為メ拷問セラレ殴打致死の暴行ヲ受ケタルコト此為メ約五百中三百許リハ逃走セルコト及労銀ハ約束ノ日給一円貳拾錢乃至五拾錢ニ非スシテ一日四拾錢ヲ超ヘスト哈爾賓所報トシテ詳記セリ

六二八

十月六日

在ハルビン山内總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛

奉露協定成立ト東支改革後ニ於ケルハルビン

ノ状況ニ閑シ報告ノ件

機密第一二二号

大正十三年十月六日

(十月十五日接受)

在哈爾賓

總領事 山内 四郎(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

奉露協定成立ト東支改革後ニ於ケル當地状況報告ノ件オストロウモフ、ゴンダツチ、ミハイロフ三氏ノ拘禁後新鉄道長官イワノフハ鉄道從業員ニ対シ鉄道内ニ於テハ政治的理由ニヨル追求若クハ高圧手段ハ此以上波及スルコトナキヲ言明シ只管動搖ヲ防止スルニ努メ一方支那側官憲ニ於

## 一〇 東支鐵道管理問題 六二八

六四〇

テモ東省特別区内居住ノ労農民籍ヲ有セサルモノハ亡命移  
民トシテ生命ノ保護ニ任スヘキ旨宣布シ極力人心ノ動搖ヲ  
慰撫シツツアルモ始メオ及ゴ等ノ拘禁ハ事實取調ノ都合上  
警察ニ連行シタル迄ニテ好待遇ヲ与ヘツツアリト新聞ヲ通  
シ宣伝シタルニ拘ラス監禁中一切ノ面会ヲ謝絶シ翌日ハ牢  
獄ニ投シ続イテ家宅搜索ヲ行フ等支那官憲ノ追求ノ手ハ愈  
々出テテ峻烈ヲ極メ三氏ノ手記、書翰其ノ他ノ書類ヲ押収  
セル為昨日迄ノ同僚間ニハ累ノ身ニ及フヲ恐レ戰々悔々タ  
ルモノ少カラス時モトテ吉林省長ヨリ当地道尹ニ対シ露  
人ノ哈爾賓ヨリ南下スルモノヲ嚴禁スヘキ旨訓令到達シタ  
ル趣ニテ尤モ地道尹ハ哈爾賓ノ事態ハ此種禁足手段ヲト  
ル必要ヲ認メス種々ノ用事又ハ取引上哈爾賓南方間ヲ往復  
スルモノニ対シ不必要ノ自由拘束ヲ加フルモノトテ反対意  
志ヲ表示シタルカ目下ノ処回答未着ニテ支那官憲ハ右ノ命  
令ハ哈爾賓ノ政治上ノ地位ノ変更乃至東支鐵道組織改正ト  
ハ何ノ關係ナク動機ハ戒嚴令ニ基クモノト説明シ居レルモ  
戒嚴令ニ基ク趣旨ナレハ殊更ニ露人ニノミ南方旅行ヲ阻止  
スルハ理不尽ノ譏ナキ能ハス探聞スル所ニ依レハ支那側警  
察ニ勤務ノ露人重要職員ハ旧軍人上リ乃至白系人物ナリシ

姿ヨト奇異ノ感ヲ覺エシメタリ

東支鐵道當局者更迭ニ依テ眼前ニ展開シ來レル事實ハ叙說

ノ次第二依テ明知セラルル如ク恰モ政治的革命ヲ劈靄セシ

ムル概アリ労農側ハ表面露支親善ノ基礎ニヨリ堅シト宣伝

シツツアレト其ノ意中ハ七年後ニ於テ全テノモノノ我露國

ニ復帰シ失ハレタルモノノ奪取ニ成功シタル如ク戰捷ニ醉

ヘル心地アリ最後ニ注目スヘキ点ニ哈爾賓ニ於ケル事態一

変ノ結果帝政派ヲ標榜スル「スウェート」新聞ハ廢刊ノ止

ムナキニ至リ「ルースキーロス」ハ「悲ムヘキ新時代」

「不可解ノ拘引」ノ記事ハ差止メニ逢ヒ「ザリヤ」及「ル

ーポル」モ同シク戒嚴令ニ基ク檢閱ニ逢ヒ抹削セラレ労農

系新聞紙ハ競フテ露支親善ト労農威力ノ発揮ニ紙上ヲ飾リ

中華新聞亦労農國家ヲ我祖國ト讚美ノ声ヲ放ツニ至リ新聞

紙ヲ通シテ哈爾賓ノ權力ハ労農ニ帰セルヲ覺エシム

以上十月三日以後ノ事實ヲ叙シ哈爾賓ニ漲ル雰囲氣ニ闊シ  
御参考迄此段及報告候 敬具

本信写送付先 在支公使、在奉天・吉林總領事、

在長春・滿州里各領事、

一〇 東支鐵道管理問題 六二九

カ探偵局次長始メ鐵道警察方面ニ於テハ露人幹部ハ全部赤

色系統ノモノト更迭セシメ哈爾賓駅及寬城子駅詰ノ警吏ハ  
露人通行客ニ對スル検査ハ嚴重ヲ極ムルニ至ルヘシト狀況

斯ノ如クシテ白党系ノ人物ハ南方旅行ヲ阻止セラルニ至  
ランカ袋ノ鼠ニ等シク戒嚴令ノ命スル處ニ從ヘハ無職浮浪  
ノ徒ハ取締ヲ受クヘク失業者ハ退去処分ニ会スルヤモ計ラ

レス又一方ニ労農ニ帰順シ臣籍ヲトリタルモノハ當分東支  
鐵道庁ニ於テ現地位ニ止マリ得ヘキモ一旦労農國民タル以  
上ハ兵役義務生シ点呼召集ノ名ニ於テ労農側ヨリ引渡ヲ望

ム時ニ支那官憲ハ條約訂結國ノ間柄トシテ之ヲ捜索引渡ノ  
義務アルコトハ支那官憲ノ声明モアリヤカテ事實化スルヤ  
ニ至ランヤモ計リ難クスケテ一時其ノ職ニ留任シ得タル者  
モ前途ノ身ノ成行ニ対シテハ多大ノ不安ヲ感シ遲疑逡巡ス  
ルモノ渺カラス労農總領事館國旗掲揚式ニ当リ戒嚴令ニテ  
團体ノ行列ヲ作リ示威運動ハ嚴禁シツツアルニ拘ラス青年

共產黨員カ樂隊先頭ニ長行列ヲ作リ町ヲ練リ歩キ革命歌  
(因ニ從來革命歌ヲ吹奏セハ支那官憲ハ直ニ拘引スルヲ例  
トセリ)ヲ吹奏セルニ対シ支那警察ハ交通整理ニ任シタル  
以外妨害ヲ試ミルコトナク見ル者ヲシテ昨日ニ變ル今日ノ

第六五号 往電第六三号ニ閑シ  
六二九 十月七日 在長春西領事ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)  
長春ニ避難シ來レル東支鐵道口シア人幹部ニ  
閑シ報告ノ件  
第六五号 往電第六三号ニ閑シ  
七日朝前東支商業部商業課長「ヨステン」モ変装シテ大和  
「ホテル」ニ避難シ來レリ同人ハ烏蘇里鐵道赤化ノ後同鐵  
道ヨリ東支ニ移レルモノナルカ昨六日更ニ東支旧幹部約十  
名カ支那官憲ニ依リ監禁セラレタル疇ヲ聞キ不取敢避難セ  
ルニテ暫ク形勢ヲ觀望スヘシト往電第六三号「トカチエン  
コ」ハ近ク大連ニ赴ク筈  
右ノ外當地露人旅館ニ避難シ來レル元白軍將校三名アリ其  
言ニ依レハ浦潮ヨリ國家保安部長「カルベンコ」部下ヲ率  
ヒテ來哈シ居リ白党ノ行動ヲ嚴禁セラレタル疇ヲ聞キ不取敢避難セ  
ルニテ暫ク形勢ヲ觀望スヘシト往電第六四号労農政府員ノ所言ト一致セサルモ御  
参考迄

尚寶城子其他ヨリ當地付屬地ニ避難ヲ欲スル下級從業員鮮  
カラサル模様ナリ

六四一

# 一〇 東支鐵道管理問題 六三〇

六四二

当方ハ未タ態度ヲ明白ニセス形勢注意中

在支公使、哈爾賓、奉天、関東長官ニ転電セリ

六三〇 十月九日 在ハルビン山内總領事ヨリ

幣原外務大臣宛

東支鐵道ノ改組後ノ地位ニ関スルラキーイン

總領事ノ見解ニ対シ報告ノ件

機密第一二四号

(十月十八日接受)

大正十三年十月九日

在哈爾賓

總領事 山内 四郎 (印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

東支鐵道ノ帰属關係ニ關スル件

奉露協定成立ノ結果東支鐵道ノ組織ニ變革ヲ見タル次第第八電報ヲ以テ及報告置候處イワノフ社長官ノ声明スル所ニ拠レハ從來東支ノ名稱ハ東支鐵道會社。理理事会トシテ代表セラレタルカ鐵道ハ露支兩國ノ共同經營事業トシテ國家ニ屬スルモノニ付東支鐵道理事會ト名稱セラルコトナリタル趣ニテ尚ルーポル新聞記者カ改組後ノ東支鐵道ノ地位ニ関シ當地勞農總領事ニ質疑シタル處ラキーチン總領事ハ左ノ

通解釈スヘキ旨答ヘタリ

「東支鐵道ハ露支兩國ノ國家共同經營ノ事業ニシテ露國ノ立場ヨリ云ヘハ其所屬ハ人民委員會執行委員會ニ依ツ

テ代表セラレ系統直屬關係ニ於テハ技術ニ関シテハ交通部財政ニ於テハ財政部ノ指揮監督ノ下ニ立チ一切ノ交渉

ハ外交部ノ手ヲ經テ行ハルヘキモノトス」

右ハ支那側ト何等了解ヲ俟ツテ声明セルモノトモ覺ヘズ單ニ露國側トシテ東支鐵道ニ對スル態度ヲ推定セルモノナラント思考セラルモ少クモ奉露協定乃至北京協定カ東支鐵道ノ解決ハ露支兩國間ノ手ニテ行ヒ第三者ノ干涉ヲ許ササル見地ニアリシト支那カ東支鐵道ニ對スル最高管理權ヲ有スルト云フハ華府會議ニテ公認セラレタリト雖モ露國側ノ承服セサル処ニシテ且又支那カ東支ヲ掌握セル當時ノ宣告モ露國攪亂ニヨリ管理ノ当事機關ヲ失ヒシトノ名目ヲ以テセル事實ニ鑑ミ東支ノ帰属問題ハ興味アル問題ニシテ單ナル露支合弁事業云々ノ字句ニテ此ノ後ノ東支ノ經營力完全ニ行ハルヘシトハ信セラレス如上ノ意味ヨリシテ「ラ」氏ノ声明ハ本問題ニ對スル露國側ノ見解ノ一端トシテ御参考迄此段及報告候 敬具

本信写送付先 在支公使、奉天總領事

六三一 十月十三日 在ハルビン山内總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛

東支鐵道ノ局長ニ新任セルイワノフノ新方針

二閥スル觀察報告ノ件

公第五三六号

(十月二十九日接受)

大正十三年十月十三日

在哈爾賓

總領事 山内 四郎 (印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

東鐵新管理局長ノ新方針ニ關スル件

東支鐵道新管理局長イワノフノ新方針ナリトシテ當地支那新聞ニ掲載セラレタル断片的ノ記事ヲ綜合スレハ東鐵自體ニ關スル方針ト對支那及日本方針ト分ソコトヲ得ヘク今其概略ヲ擧クレハ左ノ如シ

(一) 東鐵自體ニ關スル方針

(1) 東鐵財政——ノ困難ハ其極点ニ達シ居ルヲ以テ其整理ヲ斷行シ之ヲ救濟スルノ要アリ其方法トシテハ先ツ各項支出経費ノ節約、冗員ノ淘汰、職員ノ俸給減額、ブルジ

ニ関スル方針ト對支那及日本方針ト分ソコトヲ得ヘク今其概略ヲ擧クレハ左ノ如シ

一〇 東支鐵道管理問題 六三一

六四三

# 一〇 東支鉄道管理問題 六三二

六四四

東鉄ハ露奉協定ニ依リ六十年後無条件ニテ支那ニ還付スルコトナレリ右ハ一八九六年ヨリ起算スヘク其合併期間内ニ於テハ露支両国共相互ニ鉄道ノ権利ヲ尊重シ両国政府ノ運輸ニ対シテモ一律ニ其運貨ヲ支払フコトトスヘシ

(d) 東鉄ノ目的——ハ元ヨリ商業ヲ目的トスルモノナレハ從来ノ如ク政治的性質ヲ含ムノ行為ハ敢テ之ヲ再ヒスルノ意ナク松花江ノ航行問題及東鉄土地問題ノ如キハ全部之ヲ支那側ニ委帰セシムヘシ東鉄ノ商務ハ支那商トノ關係多キヲ以テ双方ノ利益増進方ニ就キ意見ノ交換ヲ行ハントス

(e) 対日関係方針  
(f) 滿鉄公社——ニ対シテハ将来モ過去ニ於ケルカ如ク円滿ナル協調ヲ保タントス但シ東鉄、満鉄間協定ノ根本ニハ触レサルモ北滿ノ現状ニ鑑ミ第七回ノ協定ヲ基礎トシテ更ニ細目ノ協商ヲ行ハントスルノ意アリ北滿貨物ノ東行（浦塙吸収策）又ハ南行（滿鉄経由）問題ノ解決ハ一ニ東鉄ノ利益如何ニ拠リテ決スヘキナリ

此戦争中ニ於テ露国ノ勢力ヲ入レンハ失敗ナリト感シタルモノノ如シ即チ東支鉄道ニ新ニ設ケラレタル理事會ノ如キモ露支双方理事間ニ議論ノミ多ク議ノ多クハ決セサルモノアリ主席支那側理事袁金鑑ノ如キハ事面倒ナルヲ以テ辞意ヲ有セリトモ伝ヘラル尚此状勢ハ奉天支那側ニモ及ホシ張作霖ノ如キモ奉直戦争終了セハ露国側ヲ圧迫ス可シト称シ居レルヲ以テ今後東支鉄道問題ニ關シ露支両国間ニ紛争絶エサル可シト思ハル

六三三 十一月一日

在長春西領事ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

東支鉄道南部線ノ貨物運賃ノ増徴ニツキ報告ノ件

第七四号 (十一月一日接受)

当地満鉄道事務所ニ達シタル鉄道情報ニ依レハ東支鉄道絡貨物中大豆、豆糟一車ニ付運賃調節費トシテ約二十七、八円ヲ徵收シ又東部線貨物ニ付テモ同二円八十八錢ヲ増徴スルニ至レル趣ノ處從来西部線ノ連絡貨物ニハ満鉄ト協定ノ上調節費一車約四十五円宛徴シ居レルモ今回ハ満鉄トノ協定ヲ經スシテ実施シタルニ付満鉄ヨリ東鉄ニ対シ協定違

(d) 国際運送会社——ニ対シテハ前東鉄幹部トノ契約ハ未タ調印ヲ了セサルノミナラス元來同社ニ貨物輸出入方向ノ裁定ヲ委ヌルハ危險ニシテ為之廳テ運賃制定ヲモ動力スニ至ルノ虞アリ尙前東鉄幹部カ該会社トノ契約ヲ進行セシムルニ当リテ同社ノ定款及財政状態ヲ東鉄側ニ呈示セシメサリシハ一大欠陥ナルヲ以テ該契約ハ断然之ヲ毀スヘシ

右御参考迄及報告候 敬具  
本信写送付先 在支公使、在奉天總領事

六三二 十月二十日 在ハルビン大久保内務事務官ヨリ  
改組後ノ東支鉄道ノ經營ニツキ中ソ双方理事

間ノ不和ニ關シ報告ノ件

哈秘第二三九号

大正十三年十月二十日

在哈爾賓 大久保内務事務官

東支鉄道ニ關シ露支両国ノ不和ニ關スル件

露国ハ奉直戦争ヲ利用シ東支鉄道ニ勢力ヲ張ラントシ切ニテ注意中ナリト漏シ居レリ御参考迄

在支公使、哈爾賓、奉天、関東長官ニ転電シ吉林、齊々哈爾ニ暗送セリ

反トシテ抗議ヲ提出セリト右ニ付満鉄側ハ右実施ニ依リ南部線貨物ノ運賃ノ如キハ浦潮大連行略ホ同格トナリ満鉄ニ打撃ヲ与フルモノトハ思考セサルモ右以外ニ露国商人等ニ對シ秘密ノ運賃割引ヲ行フニ於テハ深甚ノ影響アルヘントテ注意中ナリト漏シ居レリ御参考迄

在支公使、哈爾賓、奉天、関東長官ニ転電シ吉林、齊々哈爾ニ暗送セリ

六三四 十一月一日 在ハルビン大久保内務事務官ヨリ

満鉄ト東支鉄道トノ連絡輸送協定ノ準備ニツ

キ大蔵理事トイワノフ長官トノ会見ノ件

哈秘第二六三号 (十一月八日外務省接受)

大正十三年十一月一日

在哈爾賓 大久保内務事務官

満鉄ト東支鉄道トノ連絡輸送協定ノ準備ニ関スル件奉露協定後ニ於ケル東支鉄道ノ政策変更ニ依リ起リタル北滿貨物ノ東行南行競争問題ニ關シ來哈中ノ満鉄大蔵理事ハ一昨三十日東支鉄道長官「イワノフ」ト会見シタルカ其要旨次ノ如シト云フ

(1) 満鉄ト東支鐵道トノ連絡輸送ニ闊スル協定ハ双方ヨリ委員ヲ選定シテ交渉スルコトニ決定シ茲四五日中ニハ交渉ヲ開始スル見込ナルカ「イワノフ」ノ意見ニテハ第一回

ノ協定ノ効力ヲ明年六月迄トスルモ満鉄ハ一ヶ年間之ヲ有効トスルコト  
(2) 満鉄ニ於テ実行中ノ混保問題ニ關シ「イワノフ」ハ「モスコ一」政府ノ命ナリトテ反対シタリ  
(3) 輸送數量ニ就テハ南行六、東行四ノ割合ノ要求ナルモ若シ之ニ応セサル場合ハ南行五、五東行四、五迄讓歩シテ協定スル見込ナルカ此輸送數量及混保問題ハ協定ノ生命ナルヲ以テ協定ノ成立スル迄ニハ相當曲折アリ容易ニハ進行セサルヘシト

通報先  
警保局長、拓殖事務局長、欧米局長、警視総監、朝鮮、関東警務局長

六三五 十一月五日 在ハルビン山内総領事ヨリ  
幣原外務大臣宛 (電報)

東支、南滿ノ連絡貨物ニ闊スル委員会設置等  
ニツキイワノフ長官ト大藏理事トノ会談ノ件

## 第一八四号

閣下宛西領事発電報第七四号ニ關シ

東支鐵道ハ満鉄ニ何等ノ協議ヲナサヌシテ十一月一日ヨリ南部線区间中五家、陶賚昭間発駅ノ大豆、豆糟等ニ對シ調節費ヲ徵收スルコトヲ決定同日ヨリ實施シタルヲ以テ満鉄ハ先ノ協定ニ基キ予メ満鉄ト協定ヲ待チテ實施スヘキモノナリトテ強硬ナル抗議ヲナシタルカ東支側ハ調節費ノ決定ハ東支ノ権限ニ属ストナシ抗議ヲ排シテ實施セルモノニシテ調節費ハ大連対浦潮間貨物運賃ニ一定ノ差異ヲ設ケ夫以上両者間ニ開キヨ見ル時ハ東支ハ自己ノ區間内ニ於テ南行貨物ニ右差額ヲ均分ナラシムル程度迄調節費ヲ徵收シ得ト

議定書ニ規定シタルヲ以テ南部線ニ之ヲ実行スルモ敢テ不可ナシトノ旨ヲ主張セリ大藏理事ハ「イワノフ」長官トノ

会見ノ際調節費問題ハ双方委員会ニ於テ円満解決スル迄延

期スル様説得シタルモ「イワノフ」ハ既ニ發シタル命令ヲ取消シ難ク今後ハ満鉄ノ諒解ナク勝手ノ命令ヲ出ササルニ付調節費ノ件ノミハ是認セラレタシトテ終ニ一致点ヲ見出

サス從テ満鉄トシテハ哈爾賓区間並西部線発駅貨物ニ対シテハ運賃ト共ニ調節費ヲモ東支ニ支払フヘキモ南部線積出

**別電** 同日在ハルビン山内総領事発幣原外務大臣宛電報 第一八四号

東支南部線ノ運賃増徵措置ニ対シ満鉄側ヨリ嚴重抗議ノ件

## 第一八三号

十月三十日「イワノフ」長官ハ目下来哈中ノ大藏理事ヲ來訪シ頗ル協調的態度ヲ示シ且ツ将来東支南滿ノ連絡貨物ニ闊スル委員会ヲ設立シ一定ノ協定ヲ結フト同時ニ琿浦間ニ要スル東支負担費用撤廃東支烏鉄ノ一部運賃値上ヲ議スル筈ニシテ其際大藏理事ヨリ調節費問題ヲ持出シタルハ別電第一八四号ノ通ナリ、尚ホ右委員会ハ翌日直ニ開催シテモ可ナル趣「イ」長官ヨリ申出タセル由ナルモ大藏ハ改メテ満鉄側ヨリ申入ルヘキ旨答ヘタル趣ナリ、但シ右委員会ノ決定事項ハ今期特產物出廻期末迄有効トシ其他ハ追テ根本的協定ヲ來年夏頃ニ開キ決定スヘキ様申合ハセタル由委細郵報ス

北京、奉天、長春ヘ転電セリ

(別電)

十一月五日在ハルビン山内総領事発幣原外務大臣宛電報第一八四号  
東支南部線ノ運賃増徵措置ニ対シ満鉄側ヨリ嚴重抗議ノ件

シノモノニ対シテハ調節費ヲ東支ニ支払ハサルコトシタル處東支鐵道ハ窮余ノ策トシテ調節費ハ貨物発送駅ニ於テ徵收スヘシトノ訓令ヲ公布セル為満鉄側トシテハ事實上之ヲ阻止スル手段ナク從テ南滿線ニ於テ運賃ノ割引ヲナシテ調節費ノ賦課ニ依ル荷主ノ付帶料金ヲ輕減セシムル以外貨物ノ吸收上策ナキモノノ如シ因ニ南部線発駅ノ調節費ハ一車ニ付大豆二七留四五、豆糟四八留四八哥、西部線発駅ノモノニ対シテハ一車ニ付大豆四五留〇三、豆糟四八留七八哥ナリ

詳細ハ更ニ郵報スヘシ

北京、奉天、長春ヘ転電セリ

在中国芳沢公使ヨリ

在中國芳沢公使宛

六三六 十一月十日 在中国芳沢公使宛

東支鐵道ニ闊スル我方権利留保ノ通告ニ対シ  
カラハンヨリ之ヲ否認スル書簡送付越シノ件

付屬書

日本側ノ東支鐵道ニ闊スル権利留保ニ対シ否認  
日本側ノ東支鐵道ニ闊スル権利留保ニ対シ否認

機密第五三二号

(十一月二十二日接受)

在支那

特命全権公使 芳沢 謙吉 (臣)

外務大臣男爵 常原 喜重郎殿

東支鐵道ニ関スル我方権利留保ノ件

本件ニ関シ重ネテ露國側ニ照会ノ次第ハ機密第四八四号拙  
信具報ノ通ニ有之候處今回「カラハン」ヲ更ニ別紙写ノ  
如キ書面ニ接シタルカ右ニ依レハ露西亞側ハ東支鐵道ニ關  
シ支那以外ノ如何ナル外國又ハ外國人ノ何等権利ヲ有スル  
コトヲ否認致居リ此儘默過スルハ甚タ面白カラスム思料セ  
ハルモ從來ノ如キ抽象的ノ権利留保ヲ繰返スモ畢竟徒爾  
ニ終ルベキニ付キテハ此上ノ措置ニ關ノ本省ニ於テ御攷究  
ノ上何分ノ御訓相成候様致度此段申進候也

(右属書)

十月十一日付在中国カラハソノ連大使ニリ在中国芳沢公使

宛書簡

日本側ノ東支鐵道ニ關ヘル権利留保ニ対シ否認ノ件

October 21, 1924.

No. 1128/68.

Monsieur le Ministre,

In reply to Your Excellency's Note of the 4th inst.,

deemed it necessary to make the statement to which  
the Note of the Japanese Government of 4th of October  
was a reply.

I avail myself of this opportunity to renew to Your  
Excellency, Monsieur le Ministre, the assurances of my  
highest consideration.

(Signed) L. Karakhan

His Excellency

Monsieur K. Yoshizawa,

Envoy Extraordinary and Minister Plenipotentiary  
of Japan.KIIIK 十一月二十日(着) 在ヘルシン山内總領事ヨリ  
常原外務大臣宛(電報)

北滿洲ヘノフランチ勢力侵蝕ノ形勢ニ対シ張

作戦援助ノ必要ニシキ意見具申ノ件

第一九一號(訂正ノ分)

奉直戰終熄後尚未夕時局ノ平定ヲ見ナル支那現下ノ好機ヲ  
利用シ勞農露西亞カ東支鐵道ヲ完全ニ占領セントシ其レカ  
為メ労農軍隊ヲ東支沿線ニ配備セント焦慮シシアルハ労

I have the honour under instructions from my  
Government to communicate as follows:

In its Note of 10th of July, 1924, the Government  
of the Union of Soviet Socialist Republics declared  
that it could not take cognizance of the reservations  
made by the Japanese Government concerning the  
rights and interests of Japan and Japanese citizens with  
regard to the Chinese Eastern Railway. The Govern-  
ment of the Union considers it advisable to confirm  
its view and state that no agreement between the Union  
and the Chinese Republic concerning the Chinese  
Eastern Railway can affect any interests or rights of  
Japan or Japanese citizens or of any Third Power,  
for excepting China, there exist no such rights or  
interests of foreign powers or their nationals in regard  
to the Chinese Eastern Railway. Being desirous to  
avoid any misunderstanding that may in future arise  
out of any claims based on facts unknown to or not  
recognized by the Government of the Union of Soviet  
Socialist Republics, the Government of the Union

農側カ露支國境ニ軍隊ヲ集中シ機合アル毎ニ支那側ニ入國  
許可ヲ強要スルノ実情ニ照シ何等疑ヒナキ事実ニシテ当地  
支那軍憲ハ絶対ニ之ニ反対シ居ルモ北京ニ於ケル形勢ノ推  
移「カラハン」ハ活躍張作霖ノ東三省ヲ顧ミルニ違ナキ現  
況等ヨリ推シテ近キ将来或ハ労農ノ野望実現スルコトナキ  
ヲ保シ難キ處露支協約ノ結果軍隊カ入國スル場合ハ兎モ角  
若シ労農軍隊カ何等カ突発事件ニ藉口シテ協定ヲ俟タス國  
境ヨリ進出シタル場合奉直戰ノ為メ其大部分南下セル当地  
方現在ノ兵力ニテハ克ク之ト抗争スル能ハス支那側ハ當然  
敗北ニシテ其結果當地方ノ實權ハ既ニ今日ニ於テモ露骨ニ  
排日的態度ヲ執ル労農側ニ移リ多年ノ犠牲ヲ払ヒ築キ上ケ  
タル帝國ノ勢力ハ一朝ニシテ根本ヨリ覆ヘサル而曰ナラ  
ス南滿ニ於ケル帝國ノ利權モ亦漸次労農側ノ蹂躪ニ委スル  
ハ曰ムナキニ立至ルベクスクテ赤化ノ魔手ハ朝鮮ヨリ日本  
ニ及フベキハ労農從來ノ遭ロニ徵シ火ヲ觀ルヨリ明カニ  
シテ支那自身ノ蒙ル迷惑ハ勿論帝國ノ将来ニ絶大ナル惡影  
響ヲ來スモノナルニ付テハ未タ労農ノ勢力左程旺盛ナラサ  
ル現時ニ於テ東三省ノ實權ヲ握レル張作霖ニ対シ赤化ノ日  
支兩國民ニ及ホス影響ノ重大ナル所以ヲ余得セシムルト同

一〇 東支鉄道管理問題 六三八 六三九

六五〇

時ニ万一大武力衝突ヲ為セル場合充分援助ヲ与ヘ同人ヲシテ後顧ノ憂ナカラシムヘキヲ約シ以テ労農勢力圧迫ニ努力セシメ以テ南北満州ノ赤化ヲ防止シ帝国既得ノ権利ヲ確保シ日支両国民ノ福祉増進ヲ図ルハ帝国現下ノ急務ナリト信セラル北満州ニ於ケル労農勢力ノ侵蝕ニ対スル対策ニ関シテハ既ニ御考慮中トハ存スルモ右御参考迄ニ申進ス

公使、奉天へ転電セリ

(長春中継 十一月十九日前三、三〇)

六五一

在中國芳沢公使ヨリ

六三九 十二月十一日

幣原外務大臣

六四〇

在中國芳沢公使ヨリ

六三八 十一月二十四日

幣原外務大臣ヨリ

在中国芳沢公使宛(電報)

六四一

在中國芳沢公使ヨリ

六三七

幣原外務大臣ヨリ

六四二

在中國芳沢公使ヨリ

六三六

幣原外務大臣ヨリ

六四三

在中國芳沢公使ヨリ

六三五

幣原外務大臣ヨリ

六四四

在中國芳沢公使ヨリ

六三四

幣原外務大臣ヨリ

六四五

在中國芳沢公使ヨリ

六三三

幣原外務大臣ヨリ

六四六

在中國芳沢公使ヨリ

六三二

幣原外務大臣ヨリ

六四七

在中國芳沢公使ヨリ

六三一

幣原外務大臣ヨリ

六四八

在中國芳沢公使ヨリ

六三〇

幣原外務大臣ヨリ

六四九

在中國芳沢公使ヨリ

六二九

幣原外務大臣ヨリ

六五〇

在中國芳沢公使ヨリ

六二八

幣原外務大臣ヨリ

六五一

在中國芳沢公使ヨリ

六二七

幣原外務大臣ヨリ

六五二

在中國芳沢公使ヨリ

六二六

幣原外務大臣ヨリ

六五三

在中國芳沢公使ヨリ

六二五

幣原外務大臣ヨリ

六五四

在中國芳沢公使ヨリ

六二四

幣原外務大臣ヨリ

六五五

在中國芳沢公使ヨリ

六二三

幣原外務大臣ヨリ

六五六

在中國芳沢公使ヨリ

六二二

幣原外務大臣ヨリ

六五七

在中國芳沢公使ヨリ

六二一

幣原外務大臣ヨリ

六五八

在中國芳沢公使ヨリ

六二〇

幣原外務大臣ヨリ

六五九

在中國芳沢公使ヨリ

六一九

幣原外務大臣ヨリ

六六〇

在中國芳沢公使ヨリ

六一八

幣原外務大臣ヨリ

六六一

在中國芳沢公使ヨリ

六一七

幣原外務大臣ヨリ

六六二

在中國芳沢公使ヨリ

六一六

幣原外務大臣ヨリ

六六三

在中國芳沢公使ヨリ

六一五

幣原外務大臣ヨリ

六六四

在中國芳沢公使ヨリ

六一四

幣原外務大臣ヨリ

六六五

在中國芳沢公使ヨリ

六一三

幣原外務大臣ヨリ

六六六

在中國芳沢公使ヨリ

六一二

幣原外務大臣ヨリ

六六七

在中國芳沢公使ヨリ

六一一

幣原外務大臣ヨリ

六六八

在中國芳沢公使ヨリ

六一〇

幣原外務大臣ヨリ

六六九

在中國芳沢公使ヨリ

六〇九

幣原外務大臣ヨリ

六七〇

在中國芳沢公使ヨリ

六〇八

幣原外務大臣ヨリ

六七一

在中國芳沢公使ヨリ

六〇七

幣原外務大臣ヨリ

六七二

在中國芳沢公使ヨリ

六〇六

幣原外務大臣ヨリ

六七三

在中國芳沢公使ヨリ

六〇五

幣原外務大臣ヨリ

六七四

在中國芳沢公使ヨリ

六〇四

幣原外務大臣ヨリ

六七五

在中國芳沢公使ヨリ

六〇三

幣原外務大臣ヨリ

六七六

在中國芳沢公使ヨリ

六〇二

幣原外務大臣ヨリ

六七七

在中國芳沢公使ヨリ

六〇一

幣原外務大臣ヨリ

六七八

在中國芳沢公使ヨリ

六〇〇

幣原外務大臣ヨリ

六七九

在中國芳沢公使ヨリ

六九九

幣原外務大臣ヨリ

六八〇

在中國芳沢公使ヨリ

六八八

幣原外務大臣ヨリ

六八九

在中國芳沢公使ヨリ

六八七

幣原外務大臣ヨリ

六九〇

在中國芳沢公使ヨリ

六九六

幣原外務大臣ヨリ

六九七

在中國芳沢公使ヨリ

六九五

幣原外務大臣ヨリ

六九八

在中國芳沢公使ヨリ

六九四

幣原外務大臣ヨリ

六九九

在中國芳沢公使ヨリ

六九三

幣原外務大臣ヨリ

六九〇

在中國芳沢公使ヨリ

六九二

幣原外務大臣ヨリ

六九一

在中國芳沢公使ヨリ

六九〇

幣原外務大臣ヨリ

六九一

在中國芳沢公使ヨリ

六九九

幣原外務大臣ヨリ

六九〇

在中國芳沢公使ヨリ

六九八

幣原外務大臣ヨリ

六九九

在中國芳沢公使ヨリ

六九七

幣原外務大臣ヨリ

六九〇

在中國芳沢公使ヨリ

六九六

幣原外務大臣ヨリ

六九七

在中國芳沢公使ヨリ

六九五

幣原外務大臣ヨリ

六九六

在中國芳沢公使ヨリ

六九四

幣原外務大臣ヨリ

六九五

在中國芳沢公使ヨリ

六九三

幣原外務大臣ヨリ

六九四

在中國芳沢公使ヨリ

六九二

幣原外務大臣ヨリ

六九三

在中國芳沢公使ヨリ

六九一

幣原外務大臣ヨリ

六九二

在中國芳沢公使ヨリ

六九〇

幣原外務大臣ヨリ

六九一

在中國芳沢公使ヨリ

六九九

幣原外務大臣ヨリ

六九〇

在中國芳沢公使ヨリ

六九八

幣原外務大臣ヨリ

六九九

在中國芳沢公使ヨリ

六九七

幣原外務大臣ヨリ

六九八

在中國芳沢公使ヨリ

六九六

幣原外務大臣ヨリ

六九七

在中國芳沢公使ヨリ

六九五

幣原外務大臣ヨリ

六九六

在中國芳沢公使ヨリ

六九四

幣原外務大臣ヨリ

六九五

在中國芳沢公使ヨリ

六九三

幣原外務大臣ヨリ

六九四

在中國芳沢公使ヨリ

六九二

幣原外務大臣ヨリ

六九三

在中國芳沢公使ヨリ

六九一

幣原外務大臣ヨリ

六九二

在中國芳沢公使ヨリ

六九〇

幣原外務大臣ヨリ

六九一

在中國芳沢公使ヨリ

六九九

</div

(別紙) 右會議顛末報告書

東支、烏鉄、満鉄三鐵道間會議經過ニ関スル件

曩ニ奉露協定成立ノ結果東支幹部ノ更迭以来東支鐵道ノ対  
満鉄態度ニ大變化ヲ來シ新管理局長「イワノフ」ハ或ハ運  
賃ノ独立政策ヲ云為シ或ハ浦潮集注主義ノ露骨ナル宣伝ヲ  
試ミ烏鉄ト連絡シテ秘密裡ニ運賃割引ヲ行ヒ以テ世界大戰  
以前旧露國官僚ニヨリテ行ハレタルカ如キ浦潮集注主義的  
政策ノ遂行ニ余念ナク為ニ漸ク三鐵道間ニ於テ秘密裡ニ貨  
物争奪戦ヲ開始セル実状ナリシカ過般滿鉄大藏理事ノ来哈  
スルヤ「イワノフ」局長ヨリ北滿貨物ノ輸送経路別数量協  
議ノ開催ヲ慾速シ來リタル結果去月十八日ヨリ東支商業部  
ニ於テ東支立会ノ下ニ烏鉄、満鉄間ニテ右會議ヲ開クニ至  
リタルカ之ヨリ先キ満鉄東支間ニ於テモ連絡運輸ニ關スル  
諸問題ヲ討議スル為十一月十一日以降會議ヲ開クコトトナ  
リタルヲ以テ結局會議ハニツ開カルルコトナレリ

右會議ノ委員ハ左ノ如シ

(一)数量協定會議委員

満鉄 鉄道部貨物課長 宇佐美 寛爾

|             |             |         |
|-------------|-------------|---------|
| 同           | 運輸課員        | 福井 敬蔵   |
| 東支 管理局      | 鐵道部貨物課員     | 森永 不二夫  |
| 管理局經濟調査局 次長 | 森永 不二夫      | 伊里 春    |
| 同           | 本社商業課員      | ネポヴエートフ |
| 本社商業課員      | 管理局商業部次長    | ゼドセーフ   |
| 管理局商業部次長    | 同 商業部員      | コウエルコーフ |
| 事務取扱        | 満鉄 鉄道部貨物課長  | 宇佐美 寛爾  |
| 同           | 哈爾賓事務所 運輸課長 | 塩谷 利済   |
| 商業部員        | 同 参事        | 軍司 義雄   |

ナル主張ヲ聽クコトヲ肯セス強テ其ノ欲スル所ヲ不合理ナル形式ニ於テ遂行セムトナラハ仮令表面如何ニ弁明スルトモ東支ハ真ニ満鉄トノ親善關係ヲ尊重スルノ誠意ヲ有セサルモノニシテ從テ他ノ諸問題ノ如キハ進テ之ヲ協議スルトモ所詮徒事タルヘキヲ信スレハナリ

他方數量協定會議ニ於テハ

- 一、協定品目ヲ如何ニ定ムヘキ力
- 二、協定区域ヲ如何ニスヘキ力
- 三、協定ハ輸出貨物ニ限ルヘキカ否ヤ
- 四、配分率ヲ如何ニスヘキ力

五、配分率決定ノ場合其ノ実行方法協定期間ヲ如何ニスヘキ力

大豆ニ對スル貨車積載重量改正問題以下四問題ヲ提出シタルカ此ノ會議ハ當方提出ノ前示第一問題ニ付両者ノ主張一  
致セス遂ニ十一月二十五日限り決裂シタリ蓋シ本問題ニ對

スル解決ノ如何ハ東支鐵道新幹部ノ満鉄ニ對スル今後ノ方針、態度ヲトスヘキ根本問題ニシテ満鉄カ東支ノ反対意見アリシニモ拘ラズ強テ之ヲ第一問題トシテ討議スルコトナシタル所以ノモノハ東支カ此ノ問題ニ對スル満鉄ノ正当

哈爾賓事務所 運輸課長 塩谷 利済

同 參事 軍司 義雄

同 運輸課員 福井 敬蔵

鐵道部貨物課員 森永 不二夫

烏鉄 副長 官ウエイゼル

哈爾賓商業部 出張所長 スリマ

同 代表 ザブルートスキ

伊里 春

同 同

本社商業課員 ネポヴエートフ

管理局商業部次長 ゼドセーフ

同 商業部員 コウエルコーフ

(二)南滿東支會議委員

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

鉄代表（宇佐美貨物課長）トノ間ニ大体意見ノ交換ヲナンタルコトアル比率即チ南行（大連向）六割三五東行（浦潮向）三割六五ヲ主張シタルニ対シ烏鉄ハ南行四割東行六割ヲ主張シテ以来毎日論議ヲ為シタル結果最後ニ満鉄ハ南行六割東行四割ヲ先方ハ東南五分五分ヲ主張シテ互ニ譲ラススクテ双方ノ主張ニ十%ノ間隔ヲ残シテ遂ニ意見ノ一致ヲ見ル能ハス是亦本月五日夕決裂スルニ至レリ。

六四一 十二月十六日 在ハルビン大久保内務事務官ヨリ  
広田欧米局長他宛

#### 満鉄ト東支鉄道トノ運輸連絡交渉決裂ト露國

##### 側ノ対応策ニ関スル件

哈秘第三三〇号 (十二月二十一日外務省接受)

大正十三年十二月十六日

在哈爾賓 大久保内務事務官

満鉄ト東支鉄道トノ運輸連絡交渉決裂ト露國側ノ

対策ニ關スル件

東支鉄道ノ北満貨物東行吸収策ニ対スル協調ノ為メ満鉄側ヨリ提議シ月余ニ涉リ交渉ヲ重ねタル両鉄道ノ運輸連絡問題モ明年五月頃再交渉ヲ口約ニテ留保スルノミニテ決裂ノ

## 事項一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係

六四二 二月二十九日 在中国芳沢公使ヨリ  
松井外務大臣宛（電報）

#### 中ソ交渉開催ノ模様報告ノ件

付記一 大正十一年九月二十六日着在ハルビン山内総領事発内田外務大臣宛電報第三三一號

中ソ交渉開催ニ關スルヨツフエ發本国政府宛

ノ電文大意ニツキ報告ノ件

二 大正十二年四月二十七日在ハルビン山内総領事発内田外務大臣宛電報第一四二號

中ソ交渉ニツキ王正廷ノ新聞記者ニ対スル声

明大要報告ノ件

三 大正十二年十一月五日在中國芳沢公使発伊集院外務大臣宛電報第一〇三八號

中ソ交渉ノ経過ニツキ王正廷ニ尋不タル件  
大正十二年十一月七日在中國芳沢公使発伊集院外務大臣宛電報第一一二八號  
中ソ正式交渉ノ開催ニ關スルカラバン・王正廷間ノ書翰交換ニツキ情報ノ件

第一一〇号

（三月一日接受）

去ル十七日王正廷帰京ト同時ニ二十日、二十二日及二十五

一一 中ソ協定及ビ奉ソ協定関係 六四二

悲運ニ陥リ各々競争ノ止ムナキ状態ナリ之ニ對シ露國側ニ

テハ本月十三日哈爾賓總領事館二階ノ一室ニ於テ共產党幹部數名ノ秘密会合ヲ催シタル由ナルカ其内容ニ付内偵スル

トコロニ依レハ今回ノ満鉄對東支、烏鉄ノ協議不調ノ結果満鉄ハ其機關タル國際運送会社ヲ利用シテ輸出特產物一頓ニ付四元ノ「プレミアム」ヲ付シ傳家甸方面ノ油房組合員

ノ招待等種々ナル御氣嫌政策ヲ講シ盛んニ其吸收策ヲ企図

シテ居ル場合之カ対応策ノ如何ハ東支鉄道經營上ニ齋ス影響甚大ニシテ引ヒテハ共產党勢力ノ消長ニ関スル重要問題

ナレハ（一）此際積極的ニ外國特產物輸出商組合間ニ宣伝ヲ開始スルコト、（二）ニハ「モスクワ」中央委員会巨頭間ノ内証激烈ノ折カラ英露間ノ外交力行詰リ形勢憂惧サルモノア

リ依テ北京會議モ熟シ來リ居ル際機ヲ逸スルコトナク日本ノ承認氣運ヲ促進スヘク連続的ニ運動ヲ振作スル為メ特ニ

此時当地黨員ノ團結ヲ要スト協議シタリ

之カ為メ今後東支鉄道沿線ハ「スヘシコフ」「ワルガノフ」ノ二名哈爾賓ハ「ウラジミロフ」、「ラゼーウイチ」ノ

二名力専任的ニ其指導者タルニ決定シタリト云フ

通報先、前号同様

日ノ三回ニ亘リ「カラハン」ト會見シ露支問題ニ關スル交渉ヲ再開シタル次第ハ新聞電報等ニ依リ疾ク御承知ノコトト存スルモ右會見ニ際シ双方ノ提出シ若ハ提出セントスル案ノ内容ナルモノ若ハ此ノ際大綱ヲ協定シテ支那ハ直ニ「ソビエット」政府ヲ承認スヘシ等ノ報道支那新聞等ニ散見スルモ何レノ点迄真実ナルヘキヤ今日迄之ヲ確カムルヲ得ルニ至ラス依テ本使ハ最近ノ機会ニ於テ王正廷ニ面会シ直接同人ヨリ露支交渉ノ状態乃至支那側ノ態度等ニ關シ聽取スル積リニテ素ヨリ同人カ何ノ程度迄打明クヘキヤハ疑問ナルモ會見ノ模様ハ御参考迄ニ電報スル積リナリ尚北京及天津「タイムス」ハ二十八日ノ紙上ニ於テ Dipломat triangle ト題シ日露文ノ関係ヲ論述セルカ同紙ノ記者ノ見ル所ハ「ヨツフエ」當時ヨリ露國ハ日本トノ關係樹立ヲ第一トシ日露交渉ノ前ニハ支那トノ交渉ニハ左シテ重キヲ置カス此ノ点ハ「カラハン」又然リ今回王正廷トノ開談ノ如キ偏ニ日露交渉促進ノ餌タルニ過キスト為シ又「ザルツマン」カ「ミッショソ」側其他トノ會見ニ依リ得タル